

English Life,
E. P. Hughes,

英國風俗

英國 E. P. Hughes 著

日本 緒方 流水 譯

附錄 談話集

東京

知新館



娘スエヒロイ

イー、ビー、ヒューズ嬢の小傳

昨歲九月遠く萬里の波濤を蹴て、我國に來朝し、南船北馬、我が國教育制

度並に教育教授の狀況について、巨細に觀察精査しつゝありし人は、誰

も知る英國教育家イー、ビー、ヒューズ嬢なり。

聞く英國女子教育が今日の隆盛を致せる原因は主としてかの名高き

クンブリッジ大學内の中等教育女教員養成所を推すと、さもあるべし、

その養成所は我國の女子高等師範學校に相當すべきものにして、嬢は

嘗に一昨年まで該校長の椅子を占めたるのみならず、その創設に關し

ても、全く獨力を以て盡瘁せしといへば、實に英國女子教育の今日ある

は、嬢の奔走經營の功果にして、かの嬢を目して英國女子教育の保育者

となすも決して誣言にあらざるべし。

In writing about a foreign land, it is easy to describe the country, but very difficult to describe the life of the people. I have been much interested in the attempt made in this booklet by two Japanese women students to describe English life what as yet they have not seen for themselves. There appear to be so many points of contact between Japan and England — both old countries still full of youthful vigour — that I am hoping many Japanese will be interested in this short account of life in England.

Elizabeth Hughes

嬢は一千八百五十二年六月廿一日、英國サウスウエールズに呱呱の聲を揚げぬ。その二十五に及ぶ頃、教鞭をチェルナム女子學院に執ること約五年、然れども進取の氣象勃々たる嬢はいかて小成に安んずべき、千八百八十一年ケンブリッヂ大學が女子の入學を許すと聞くや、奮つてニユーナムカレッジに入學し、哲學科を履修し、首席を以て學位試験に登第し、同級幾多の有髯男子をして瞠着たらしめたりき。翌年更に歴史の學位試験に合格しぬ。蓋し該科は三ヶ年の科程にして、普通の順序を経たる男子すら爲めに三年の長日月を費すといふ。以て嬢の才幹の非凡なると、その精勵の人に超えたるとを見るに足らん。

英國女子教育の機運漸く一道の曙光を放ち、ケンブリッヂ大學内に女子中等教員養成所の設けらるゝや、嬢は推されてその校長となりぬ。爾

後嬢は献身的に經營慘憺學校を見ることさながら我家の如く、専心一意その發達隆盛を謀るもの十有四年の長日月、恰も一日の如くなりしが、一昨年病の故を以て職を辭したりといふ。この他嬢が國民教育上貢獻せしもの亦多し。或はウエールズ大學勅撰評議員に選ばれ、或は英國女子高等教育界代表者として米國シカゴ萬國會議に出席し、或は英國々會の撰を蒙り小學教育の狀況取調委員となり、或は小學教員會の委員となり、或は私立教員養成所の名譽會員となりしが如き、一々枚舉に遑あらず。その眞に英國教育家の泰斗と稱せらるゝの誇張にあらざるを知るべし。

嬢は今や校長の職を辭したりと雖ども、その女子教育に對する熱心は尙ほ昔と變ることなしとぞ。嬢は生徒の訓練に最も力を用ひ、殊に各個

四 人の氣質、體格、嗜好に應じて、各々それに適當なる教育、所謂個性教育を施すを主義とせり。其の學校の生徒を七十名に限りたるも蓋し是れが爲めなり。

嬢の其生徒に對するや深き親切と、厚き同情とを以てするが故に、不語の不語の感化は普く生徒に及ぼし、叱責をも加へず、處罰をも課せずして訓練は最も平易完全に行はれしと云ふ。

嬢は又一般社會に對して廣き同情を有するを以て、あらゆる階級の人に交際し、日曜の午後毎に勞働者の會の爲め、教師を聘して講話せしめ、教育幻燈を示して、其感化を勉むるなど、一個の社會教育家とも見るべし。

嬢は頭腦明晰にして觀察機敏、精根人に超え、加ふるに多方面に興味を有し、如何なることにも知らんことを勉め、さることなし、その校長たりし日、毎日曜日に學校に於て、新刊書籍雜誌の批評をなし、後進に指示するや、悉く其の肯綮に中り、人をして感動措く能はざらしめきといふ。嗚呼嬢の如きは泰西女傑の有數なるものといふべし。



例言

一 維新以來我國歐米の諸強と交り、彼の長を採り我の短を補ひて、今や對等の交際を爲すのみならず、又歐洲最強の一たる英國と同盟を結び、東洋平和の關鍵となるに至れるは實に我國力の一大進歩と謂ふべし。自今日英の兩國は益々相親善し、外交上に於てのみならず、又社交上に於ても提携扶翼して兩國の利益を増進せしめざるべからず。此時に際し、我國民要

務の一は文明の先輩者たる同盟國の風俗人情に通曉せんことなり。是れ余が本書を世に紹介する所以なり。

一 本書所載の「英國の風俗」はヒューズ嬢が其宿舍に於て日本の二女學生に親しく口授せられたるものに係り、緒方流水氏に乞ひて反譯したるものなり。英國社會の内情は躍然として紙上に顯はれ、讀者をして身自ら其實境に在るの感を爲さしむべし。

一 附録の「英國の家庭」「英國の元旦」「子女の教育」に就て「華族女學校生徒諸子に告ぐ」「登山の説」の五篇は曾て國民新聞に掲載せられたるものにして、家庭教育及女子教育に關する嬢の卓見なり。今特に民友社の承諾を得て本書に編入せり。聊か記して厚意を謝す。

一 附録「英國人の立場より見たる女子教育」「英語教授に就て」と題する二演説は、現今我國の問題たる女子教育及英語教授法に對する嬢の解見にして、教育者の特に注意を要するものとす。帝國教育會の承諾を得て教育公報より轉載せり。是れ亦同會の厚意を謝す。

一著者ヒューズ嬢は英國教育の大家にして其一方の代表者たる人なり。今本書によりて其卓見高説を紹介するの榮を得たるを欣ぶ。

明治三十五年十二月

知新館主幹 相見 磐識

目次

(一)	次	目
	~~~~~	
	◎英國の風俗	一頁
(一)	上等社會	一
(二)	中等社會	一一
(三)	下等社會	一七
(四)	英國の家庭	二四
(五)	家庭教育	二九
(六)	學校教育	三七
(七)	婦人の交際	四三
(八)	英國人の特質	四九



(九) 過去五十年の進歩……………五六

附録目次

◎英國の家庭……………六三

(一) 英國家庭の長所……………六三

(二) 家政整理及女子教育……………六八

(三) 訪問及交際……………七二

(四) 妻の内助……………七五

(五) 婦人の日課……………七九

(六) 夫婦の親和……………八二

◎英國の元日……………八五

◎子女の教育に就て……………九二

(一) 忠君愛國の氣象を養成すること……………九二

(二) 國旗を崇むるの大切なること……………九五

(三) 女子の愛國心涵養の方法……………九七

(四) 倫理教育の方法……………九九

(五) 節約の氣風を養成すること……………一〇三

(六) 學校と家庭との連絡……………一〇五

(七) 教育の眼目……………一〇六

(八) 女子の結婚……………一〇九

◎華族女學校生徒諸子に告ぐ……………一一二

◎登山の説……………一三三

◎英國人の立場より見たる女子教育……………一四五

◎英語教授法に就て……………一七〇

目次終

# 英國の風俗

イー、ピー、ヒューズ述

緒方流水譯

## (一) 上等社會

英國の風俗を紹介するには先づ其上等社會から御話し致ねばなりませぬ、英國にては日本と同じく上中下の三階級があつて、皇族、貴族、紳士、農工商とやうに分れてゐますが、財産や爵位は長子にのみ添くもので、次男から下は爵位は勿論、財産とても餘計には貰へぬのであります、これは他の西洋諸國と異つた風習と云はねばなりません、日本でも次男

から下の弟株は分前の善くない方で、家督や財産は長男が相続するこ  
 とになつてゐるさうですが、英國では爵位が襲げぬ代りに次男から下  
 は特別に自由を與へてあります、何な職業につくのも自由であるから、  
 貴族の子だからとて悠長に構へて遊んでゐるものはない、貴族の八百  
 屋でも番頭でもあるのだから、爵位の有無は紳士の資格に何程の關係  
 もなく、また其間に區別といふものはありません、一例を挙げれば、蘇國の  
 或公爵の長子は皇女と結婚をしたのに、其の次男は何うかといふと、茶  
 商人で機敏に業務に駆け廻つてゐる、茶商人だから此次男は、長子の公  
 爵に比べて世間から輕蔑されるかといふに決して其様なことはあり  
 ませぬ、茶商人は茶商人で、立派な紳士として立通して行れるのである、  
 長子は爵位を續て名譽を受る代りに責任が重い、英國では貴族的義務

といふ言葉さへある程ですから、長子は貴族として公共事業に關係せ  
 ねばなりません、爾して其の無報酬なのは云ふまでもありません、  
 概して英國の貴族は男女を問はず生理的に甚だ健康であります、有位  
 無位に係らず、貴族だからとて懐手してゐるものはありません、凡てが  
 義務の念に富んでゐるので、活潑に立働いて少しも仕事をすることを厭は  
 ぬ、有位の貴族で、公共の事業に關係するものは、國會議員や、市町村長な  
 どになるのですが、勿論何れも無給であります、久しくケンブリッヂ大  
 學の教授を勤めてゐた故アリントン公や、此程内閣を辭せられたソール  
 スベリー侯の如きは英國の貴族であつて、最も能く貴族の職分を盡し  
 た標本なのであります。

貴族の婦人は何うかといふに、外見上貴族の婦人はど氣樂なものな

いやうですが、實は仲々さうでないであります。烏渡其外見の氣樂なところを摘んで記るせば、一夫一婦の制度が嚴正に行はれてゐるので、夫が妾を蓄ふる心配といふものがない、子供の世話は一切保母委せて、偶に注意か指揮をする位に止る、料理をするにも夫々料理人を雇ふてあるの、自身に臺所に出掛けて手を下すには及ばぬ、人は其道に依て賢しといふ諺もある如く、其の料理人が仲々の上手で、手腕を揮ふて種々の佳肴珍味を卓上に備へるのである、眠るも起るも勝手に、出るも入るも心の儘、何に一つ不自由といふものはなく、實に此位氣樂な生涯はないのであるが、此の貴婦人の責任といふものが又仲々に重ひ、決して氣樂に遊んでゐるのではない、生活は充分幸福に送ることを力めてゐますけれど、外に對しては又夫々役目を持てゐるのであります、第一が

交際で、巧く御世辭を振捲くとか、愛想よく客を待遇ふとか、如才なく立廻つて、文藝の道にも一通りは通じて居らねばならぬし、音樂や舞蹈、社會の出來事など能く呑み込んでゐて、客に依てパツを合はせ、場合に依て適當な題目を捉へて其席を賑はすなど、千變萬化の秘術を盡して巧く交際社會を切り抜ねばなりません、若しも心得が淺いか、又は過ちかして一步交際法を誤ると、夫れはく、酷い排斥を受るのである、浮名など立てられた婦人は終世顔出のならぬやうな羽目になるのである、朝の花の夕に散るとは實にこの事であり、交際は貴婦人の大役であつて、貴婦人は最も交際に心を用ふるのであるが、この役目の外に演説もせねばならぬし、貧民學校を見舞ふて幾許かの寄附金もせねばならぬ、其の他音樂會や、慈善會、茶話會、夜會、園遊會などの催しには一々出席

して其の社會の機嫌をも取らねばならぬ仲々骨の折れる役目で、身に資格が出来てゐないと迎も遣り切れぬのである。だから煩いとか、面倒だとか云つて、つい役目を逃れる氣にもなるけれども、社會が見逃さないで、貴婦人は貴婦人丈の責任を盡さねばなりません。其社會相當の交際もせず、公共事業などにも冷淡であつて、手出をしないと、當の貴婦人は勿論、その家族は世間から撥斥されて悲惨な境界に陥るのみか、新聞紙や雑誌は容赦なく其の過を暴き出して痛罵を加へ、終には貴族廢止論などの議論も起るので、其の間の苦心といふものは迎も日本の人々の想像し得るところではありませぬ。

貴婦人の日課は朝は大抵九時か九時半頃に起き出るのが例で、朝登前に寢室で少量の食物を取り、それから正服に着代へて、食堂に出で、家族

と一緒に食卓につくのであります。併し子供には別に食事を與ふることになつてゐます。食事が済めば書齋に閉籠つて、書簡を認め、二三の重なる新聞を読みなどして好きほどの時間を過し、それから小兒養育室に行つて小供のことに心を配り、何か氣付いたことがあれば保母にそれ／＼注意を與へ、その役目が済むと、病院や孤兒院、貧民學校などを見舞ふて、其處で話をするか、又は寄附金をするのであります。

晝飯は一時頃に済し、食後友人または夫の知人を訪問し、訪問せられなめてある。二三時間を過すのであるが、日によりて在宅日と訪問日とを定めてある。四時は喫茶の時間で、訪問に來た友人や家の小供達と一緒にをかしく面白くさざめきながら喫するのである。夕方まで閑談に時を過して、七時か七時半頃に夜食につくのであるが、この時は主人も主婦

も禮服に改めて、訪問者があれば訪問者と一緒に食事を爲す、食事中は種々の面白き話などがあり、食事が済めば音楽や舞踏其他文學や宗教じみた高尚な遊びに夜を更すのである、訪問者中男女の客が多ければ一時間許り男女別々になつて、婦人は客間に分れて女同志さまぐの話しや遊び事をして楽しむのである、この間男子は食堂に残つて喫煙をなし、またはビールなどを飲む、英國に限らず、西洋の紳士は婦人の前で喫煙するやうなことはない、婦人の前で喫煙するのは紳士の耻であり、す、何んな親しい間柄でも婦人の許しを得てからでないと決して喫煙をしない、汽車の内とか馬車の中などは固く喫煙を慎むことになつてゐる、男女別々の會談が済めば婦人も一緒に食堂に落ち合つて、また様々の遊戯をして十二時頃まで過すのが例であります。

日曜日は何うするのかといふに、この日は夫婦子供手に手を取合つて、植物園から動物園、博物館から公園とやうに遊覧して心神を養ひ、傍ら子供の見聞を博くし、教育の一助とするのである。

以上の上等社會の中に田舎紳士、即ち郷士ある一階級がありますが、この田舎紳士は無位の貴族に屬するもので、無給で市長や郡長などを勤め、いづれも理想に近い圓滿の家庭を形造つてゐるので、この田舎紳士の一階級は英國の社會に最も重要な位地を占むるものであります、大抵彼等は田舎に住居してゐて、春季二三月を都會に送るのが例であります、この春季二三月はロンドン、シーズンと稱して都會の交際の時期であるから、彼等は特に此時期を撰んで都會に出ることにし、妙齡の娘でも持つてゐると、親達は社會を知らしむる爲に娘を引張り廻

はるのであります。

田舎紳士の妻女の日課は前に記した貴族婦人のと大した違ひはありませぬが、田舎は田舎だけに異なる點がないてはありませぬ、都會の貴族婦人が交際社會に出る代りに、田舎の貴婦人は近隣の人々を集めて有益な本を讀み聽かせ知識を與へ、または茶話會を催して妙齡の娘子供から老人に至るまでを招待して、宗教の話などをして教訓するのである、で日曜學校に盡力するのは云ふまでもない、この間自分の修養にも充分心掛けて時勢に後れないやうに力め、よく書籍を讀む、細君の役目はザツと先づ斯んなものですが、田舎紳士其人は公共事業に盡す餘暇に遊獵に出掛ける、英國では殊に田舎紳士の遊獵が流行なので、獵犬の如きも一軒の家に十余頭も養ふてゐるのがあります、或る家では犬に

御馳走をする爲に特別に料理人を備へて居ると云ひます。

## (二) 中等社會

中等社會にも上下の二種類があり、概して商工業者はこの階級に屬するものであります、商工業者とまをしても、日本の商人や仕事人とは違ひ、自分の店先で商買をするとか、または自分の家で仕事などをして其の日々々を送るやうなものではなく、商館とか工場とかに奉職して通勤する側の人物で、教育は餘りないけれども夫々技能もあり經驗も積んで居るので、生活は先づ可なりと云はねばならぬ、殊に工場の人か會社の社長とか云ふものになると、學識も相應に備つてゐて才智も敏活なので、其の所得がまた太したものである。

この階級の婦人は日本の中等社會の婦人と畧同じ位地にあり、家政を司り、子女を教養し、夫の相談相手にもなつて、場合に依ては交際の役目をも引き受けやうといふのであります。衣服は盛服は例外とし、常服や子供の服は成るべく自分で裁縫し、洗濯に至るまで自分の手に合ふものは人手にかけぬやうにする。經濟にかけては極細い方で、例へば一枚の衣服を製ゆるにしても、珍柄で、流行で、爾して代價の廉い物を廉い物をと心掛けるのである。凡て經濟向に工夫を凝して巧く金を使ふのは英國婦人の得手と云つても好い。日用の食事を調理するにも下女任せにして置くやうなことはなく、主婦が自分で立觸つて鹽梅をもし、廉價の品物を旨く料理して膳に上せるのである。即ち主婦は料理方の指揮役を以て自ら任じ、臺所向の材料や反物などは自分で市場に出掛け

て行つて買ひ求め、日用の菓子、ジャム、バターなどは自分で拵ゆるのであります。

日課として此階級の主婦の生涯を記るせば、朝は大抵七時か七時半に起き出で、毎日の規則として冷水浴をする。この冷水浴は神經や皮膚を強健にする健全法なので、四季止むることなく、毎朝起き出ると直に實行するのであります。冷水浴が済むと衣服其他の裝飾をなし、下女の手助をして八時か九時に朝飯につく。此時は上流社會とは異ひ子供も一緒に家族中皆集るのである。朝の食物は鶏卵、菓子、肉類、麵包、バター位に止まる。食前に下女下男に至るまで一堂に會して祈禱會を開くのが例で、主人が司會者となり、聖書を読み、諸共に讚美歌を誦ふ。食後は二三の新開紙を讀んで時事問題其他に付き會話をなす。其中子供は學校に行く



べき時間となり、夫は其の勤務に出掛けるので、細君は家に残つて下女の掃除を監督し、室内を裝飾し、または手紙を認める、彼是して家内の役目が済むと、今度は幼い方の子供と一緒に市場に出掛けて日用の諸物品を買ひ求め、帰宅後は衣服の綻びを繕い、レースなどを編むのであるが、これは始末のよい日本の主婦と異つたことはない、一週間の中に洗濯日は定つてゐて、前にも記した通り、此時は下女任せにして置くやうなことはなく、自分も手助をするのである、毎日晝迄の時間は家事向に頓着してゐなければならぬので、主婦にとつては最も多忙な時間なのであります。

晝飯は十二時に食繕につくのが規則で、子供も學校から歸てくるので、すから、母と一緒に食事を済ませる、それから主婦は夜食の準備に取り

かゝつて、夫々下女に吩咐けて置いて、午後三時から友人を訪ふか、左もなくして在宅の日なれば訪問の來客に應接するのである、四時の喫茶の時間に茶と菓子類を喫し、七時半に一同晚餐につくのであるが、この晚餐の時には夜用服に着代へるのが例で、何んな有福でない家でも形式だけに禮服に着代へることになつてゐるのである、實に晚餐の時ほど家庭に取つて愉快な時はない、一家團樂、和氣藹々として睦み樂む有様は地上の樂園とも云いたひ位、互に何の隔ても偽りもなく笑ひ興ずるので、夫は終日の疲勞もこの晚餐の席に全く癒され、妻はまた其日々々のことを話題に上ばせて、何が可笑かつたとか、珍らしいとか面白いか、話が罪のないこと許りて、太郎や次郎が又切りに勇み立つ、其席に招かれた客でもあると一層の賑ひで、主客の交情も自然に温かになるの

である、食事が済むと、主婦は洋琴など弾で、夫は謡ひ、子供は躍るといふ騒ぎ、この間の快樂は逆も他人の想像し得るところではない。

凡てが無邪氣で遊びの小供らしいのは驚くばかり、斑髪の老人が小供の仲間入をして遊ぶのは少しも珍らしくはなく、誰も彼も小供になつて遊ぶのですから、丸で世間を離れて無意識になるのです、戸外の遊戯ではテニス、コロケ、クリケットなどが最も行はれ、室内の遊戯では舞踏、玉突、將棋其他種々の遊戯が行はれる、夕方または休日には夫婦親子、兄弟相集りて無邪氣に遊び暮らすので、自然に國民の體格が強壯になり、精神にまで其の影響を及して堅忍不撓の性質を養ひ、何んな老人でも青白い顔色の者のないのは全くこれら運動や遊戯の結果なのであります。

欠

MISSING

の女教師となるのです、書學、算術、音樂など其の家の子女に稽古をさせて遣るのが役目で、語學は別に一科として書物に就て教るやうなとはなく、成るべく談笑の間に知らず識らず習得させるやうにするのです、子供が澤山ある場合には一人は佛語一人は獨逸語とやうに其科白を分けて對話さする趣向もあつて、小供を飽かせずに教へ込むのが上手としてあります、女教師の教へ方に缺點があつても、主婦は小供の前で彼是ど干渉するやうなことはなく、後で一室に呼んで、これは斯う、あれは彼様しては如何などと注意を與ふるのである、女教師は子女より先生の敬稱を頂いてゐるけれども、内實は随分窮屈なことが多いといひます。

以上の上中流の家には必ず子供の爲に設られた養育室があつて、子供

は保母や女教師と此處で寢食を共にします、此養育室は家の中でも一番眺望の善い室で、空氣の流通から、光線の入り工合までが充分注意され、加之成るべく閑靜を主とするのです、子供は大抵七八歳まで年長者なる父母と一緒に住むことを許されませぬ、といふのは小供を天真爛漫に育てることを望むからで、年長者と一緒に居れば自然その行爲を見習ふて眞似をしたり何かする、食事にしても、大人の食ふ物を欲しがつたり、又夜早く寢床につくのを嫌がつたりするやうになる、一昧子供は大人よりも睡眠時間を多く取らねばならぬし、食物は成る丈軽い淡泊としたものを撰らまねばならぬから、麵包やバター、牛乳菓物または消化し易い肉類に限るのである、鳥渡考へて見ると、親子の別居は何か斯う情愛がなさうに思はれますけれど、其の實小兒教育の上に最も良い

組織で、別居するから日に一度も互に顔を合はせぬといふのではなく、子供は大抵日に二度位兩親を見舞ふことを許るされ、母親も朝餐の後ち一時間位は養育室にあつて子供と一緒に遊ぶのを例とするのであります。

一家の中には老人がゐない處から、英國では主婦の理想通りに子供を教育するとが出来ます、假んば別居しない老人が其家にゐても、子供の教育には無關係なので、新舊思想の衝突といふものがなく、小供の爲から考へても至極好都合である、世の中は絶えず進歩しつつあるのに、一時代も前の老人の思想と現代の知識を呼吸する主婦の思想と折合ふ筈がなく、老人と主婦と名々に主張を立通す日になれば、夫れこそ一家の禍である、この場合には、若き主婦は年長者なる舅姑に止むを得ず従

はねばならぬし、それでは子供が可哀想であるから、子供の教育には老人の關係しない方が先づ得策であらうと思はれる。

英國の婦人が子供を教育する一般を舉れば、小兒の時から獨立自治の道を教へる、例へばまだ金錢の使ひ方も知らない時分から、少許宛の金錢を與へて貯蓄することを教へ、また品物を買ふにも、品物の價を見計り、自分の財府と照し合はせて夫れを買ふとか買はぬとか判斷するやうにする、貯蓄した金は何に使ふかといふに、決して無駄費ひをするやうなことはなく、殊勝にも孤兒院や貧民學校などに寄附するのである、まだ物の握りやうもよくは覺えない時分から、自分で靴の紐を結ばせ、母親は脇で見てゐても態と手助けをしない、これは子供に依頼心を起させたいためであります。

大抵學校に行く年頃になれば、衣服を着ることから學校の道具、其他自身に關することは皆自分で用を足させる、日用品の購求等自分で用を足すのは云ふまでもない、かく一方に獨立心を養成すると共に、活潑の氣象を養ふ爲に運動をも獎勵します、子供が養育室に見えない時は、吃度公園か其他の運動場に遊びに出てる時であります、女の子供でも運動を獎勵するところから、十五六歳までは男の子と同むく裾の短いを用ひる、だから男女に係らず何家の子供も血色がよく、愛々しく肥え太つてゐて、發育のよい樹木の心の儘に花咲き葉茂るに似たる趣があります。

一昨英國の教育は、學者博士を作るよりも紳士淑女を作るのを目的として居ります、今の紳士は昔の武士風の變化したもので、昔の武士時代

に婦人を尊敬した處から今も猶其風が残つてゐるのです、婦人を尊敬するから其の教育を重んじ、上流は勿論、中流でも少し資産のある家では子女の教育に金をかけるのを厭ひませぬ、丁度日本で茶の湯、活花、琴などを仕込んで女の嗜みとする如く。

日曜日には親子共々教會に行つて牧師の説教を聴きます、殊に子供の腦裡に宗教心を印象する爲めに設けられた日曜學校は太だ盛んなものであります、日曜日の午後は大抵女教師や保姆と一緒に動物園、または博物館、圖書館などに行つて知能を啓發される、かくして家庭教育は學校教育と相待て善良なる性格を養成し、名残なく紳士淑女たる地盤を築き上るのであります。

## (六) 學校教育

二三十年前までは英國の小兒は大抵寄宿舎に入つて勉強をしたものであります、今は全く反對で寄宿するものは余程少くなりました、七八歳から十七八歳までに普通教育を修め、少數の人が大學に入つて専門學の研究をなすのです、大學は大抵二十三、四歳に卒るのであります。

小學校は何れの國も同じく、初歩の學問を授け、國民教育の基礎を造るところであるから、國民一般に普及するの必要あるは云ふまでもなく、幼兒の精神を強固にし、愛國の元氣を養成して、將來實用的の人物を作る爲めに特別の注意を要します、間には男女混交の學校もありませんが、多くは別々に設けられてあります、小學の義務年限は滿四年で、これを

義務學齡とし、この學制に背て兒女の就學を怠る者は相當の罰責を受け、政府は嚴に義務學齡者の就學を促して少も假借致しませぬ、小學以前は幼稚園に收容し、手初の教育を授るのであります。が、上中流では保姆や女教師の手で教育しますけれども、中等以下になると、保姆女教師を備ふ力がないので、幼稚園の設置は余程彼等に便宜を與へます、上中流社會でも幼稚園に入れて教育するものがないではありませぬ。

中學は日本の尋常中學校及び高等學校に當り、他日大學校に入る豫備門なので、小學卒業後に入るのであります。

大學の目的は何れの學校でも學理の縊奥を研め、専門の精微を分つ處でありますけれども、英國のケムブリッジやオックスフォード大學は稍趣を異にし、紳士の資格を養成するの點に重きを置てゐるので、學術の

點は獨逸の諸大學に比して劣つてゐるかも知れませぬが、學生の品格の高い點は遙に優つてをります。女學生の中でも他日高等教育を授る女教師となる志のあるものは大學の課程を卒へたる後一年又は二年間教育學を研究し、實地傳習所で兒女の教育に當るのもあり女醫者または著述家、新聞雜誌記者たる爲に夫々準備を爲すのであります。

大學生の日課は朝は大抵七時に起き、如何なる寒い日でも必ず冷水浴を爲し、衣服を着て八時頃朝飯を濟し、食後半時間程有志の者は公堂に集つて聖書を讀み又祈禱を爲します。授業は九時からで、講義は小中學とは異り、教師の講義を聴くのは日に二時間か三時間位のもので、多くは自習時間に費やされるのである。講義の際生徒は重に不審を糺し、または自習の爲に引照する要所や参考書を示さるるに止り、特別に講義



を聴くのではありませぬ、課業が済むと運動場でテニス、コロケ、クリケットなどを遊び、または體操をなす、この體操の時間には悉皆體操服に改めて活潑に四五十分許り操練なし、夫れから圖書館に入て或問題の研究を爲す、圖書館は静かなもので、何千人といふ人が入つてゐても少しの音響もなく、頁をくる音の聞取れる位、四時頃に喫茶會といふ者が設けられてあつて、保守黨、進歩黨とやうに組を分つて時事問題について論議し、思想の交換を計る、夜は大抵九時頃寢床につきます、毎日の勉強時間は一般に五時間より八時間までですが、優等の生徒はまづ六時間位勉強するのを通例としてゐます、運動時間は三時間餘りでございます、英國の大學生は學校にゐる間は社會と接觸することを許るされませぬ、この點は餘程米國の學生と異つてをります、米國の大學生は社會に手を出しつゝ勉強する者が多く、自活自給生も米國の方が遙に多いやうでございます。

青年男女が或特別の業を卒へて愈よ學校の門を出れば、父母はこれを交際社會に紹介致します、これが社會と接觸する交際の仕初めて、紳士淑女はその左右を取圍んで握手し、尙ほ將來の交際をも求め、御目出度々々と云ひます、社會の新入生たる彼等は初はきまりを惡がつて、耻しさが一杯なので思ふとも自由には話し得ませぬけれど、追々時日のたつに従ひ、天晴一廉の紳士淑女となり濟すのであります。

女子は卒業後二三年は父母の膝下にあて、家政の整理法や、小兒の養育法、社會との交際法などを練習するのでありますが、此二三年は一生涯の中で最も大切なる時期と云はぬばなりません。

この實地練習の二三年の間、新刊の書籍、新聞雜誌などは注意して讀み、時勢に後れないやうにと力め、また時々遠方の旅行に出掛けて見聞を博くし、種々の會に臨んで社會との交際をするのです。英國では何故此の時機が大切かといふに、日本や佛蘭西其他の或國では、女が結婚をすれば夫の家に夫の父母兄弟姉妹と同居し、家事向のこと凡て舅姑の命に従ひますけれども、英國では結婚をすれば新家庭を作るといふのであるから、凡ての家内の責任や事務は妻女の上に聚るのです。だから一人前の婦人になつてから結婚しないと何に角につけ不自由を感ずるのです。男子も相當の収入が得られて妻子を養ふに足るだけの實力が出来ないと結婚することを許るされず、また已れも敢て輕卒な結婚をすることを好みませぬ、實に一刻千金とは此時のこと、此二三年の

間に一人前になる凡ての準備を爲すのですが、天稟の才があつて、交際にも熟練し、夫に同情を表する資格が出来れば、女は早く結婚するも差支がないのでございます。

### (七) 婦人の交際

交際には種々込入つた接待法もありますけれども、第一、主人は凡ての客を安全に守り愉快ならしめんことを務め、第二、客は主人または其の會を充分圓滿に面白くするやう心掛ねばなりません。交際の二大徳ともいふべきは、凡ての客の性質を察して同情を以て接待すること、利己を捨て、専念に人を喜ばするやう力ることであり、此二大徳は社會を圓滿に調和する要素ですから決して忘却してはなりません。英國

婦人の考では、客が我が家に居る間は、其の客の安全と愉快を計る責任があるものとしてあるから、假令平素は碌に交際をせぬ人でも自分の家に客になつてゐる間は、其の責任として客を愉快にすることを力め決して疎略のないやうにします。夫には客の性質を見て取る監察力が必要であります。若し客の中に内氣の人でもあつて傍の人と話も出来ず、手持無沙汰な様子が見ゆるならば、先づ第一にその人に眼をつけて何のやうなところから話を持懸けたならば、その人を樂ますることが出来ようかと考へ、如才なく其場を取繕はねばなりません。殊に老人などは注意の上にも注意を加へて、萬一の過のないやう、よく氣心配るのであります。

交際は英國人の特長と云ても善いので、何人に拘らず好意と眞實を以

て客を遇するところは他の國民に見難いところであり、元來家庭は聖き處としてありますから、素性の知れぬ、紹介状も持ぬ人が突然其家を訪ふても主人は其人を受けつけませぬ、彼等は此類の訪問者を家庭の侵入者と見做します。其代りに前の同じ人でも誰かの信用ある紹介状を持ってゆけば、主人はこれを引見し優遇して下にも置かぬ、諺に佛蘭西人は戸を半分開けて客を受け、英國人は門戸を開放して客を歓迎すと云ひますが、實に其通りで、英國人は客と自分の間に障壁を構へて客を見るやうなことはなく、一見十年の知己でもあるかのやう、隔てなく、偽りなく、有の儘の處で交際を致します。米國人の何でも贅澤なのを喜ぶのに反して、英國人は贅澤は下品だといふ考へから、人を御馳走するにも、米國人のやうに餘計な食物を卓子に並べ立てるやうな贅はせ

ず、交際を上手にして客を喜ばすれば夫れて満足するのであります。訪問時間は大抵一定してあるので、午後の三時から五六時までの間ならば主婦の應接するのを禮としてあり、朝早くか、午後早く客の訪問する時は、要事の爲の訪問であるから、主婦は定まつた訪問時間の如く一々客に挨拶するには及びませぬ、これが風俗なので、主婦が應接をしないでも決して失禮には當らないのです。

上流社會は殊に交際の頻繁なところで、毎日毎夜の如く宴會や音樂會の催しがあります、宴會や音樂會は交際を擴める第一の手段で、最初は疎遠にしてゐた人も二三度其の席で顔を合はすれば段々親密になり従つて樂みの場所も多くなるのです、交際の不得手な人ほど氣の毒なもののごさいませぬ、當人は勿論夫子供に至るまでが其の社會からは

排斥され、世間からは疎んぜらるゝので、自然夫の仕事にまで差戀く夫が世間から受る毀譽褒貶は妻女の交際の巧拙に依て分ると云つても好いのです。

日本の御婦人方にお勧め申したいのは交際法を改良することです、日本は日本に相應した交際法を定めて、舊式の交際法を改良したならば必ずや日本の社會に一大變動を來すてゐませぬ、此國では下等社會の婦人は丸で交際といふものを知らず、上流社會の婦人は切角男子の會などに臨んでも面白く調子を合はする力を持ちませぬ、この欠點のある處から藝娼妓が出來、下等社會の婦人がそれになるのであります、廢娼論など唱るよりも婦人の交際法を改良するが好い、烏渡迂遠な説のやうに思はれますけれど、實は社會の風紀を高め、婦人の地位を増

進する最良の近道であります。

英國の人々は種々に交際を利用します、例へば、客が政治家なれば、主人は政治がかつた話をして、自分の所感をも述べ、客の意見をも聽て新知識を得るのである、また客が音楽家なれば、音楽について知つてゐると知りたいたことなどを話して此の方面の利益をも收め、交際の中に新知識を得、各種の方面に興味を加へつゝ、主婦は進歩するのであります、斯く如才なく交際をするには各種方面に興味を持てゐなければならぬし、専門の知識はなくも一通の心得がなければなりません、社會が進歩すれば進歩するほど交際は頻繁になるので、従つて女子の役目も繁雜になるのです、此點については日本の婦人方が篤と考へらるゝことを望みます、社會を改良するにはまづ社會を組織する個人を同化せねば

なりません、世には理想の高尙に過る爲め、實行の覺束ないのに避易して失望する人もありますけれど、夫れは社會を改良する資格がないから、眞に社會を改良する志があるならば、理想と實際とが何程懸隔してゐても失望するには及びませぬ、忍耐と博愛とを以て推し通し、めげず撓ゆまず社會の爲に盡すべきでございます。

### (八) 英國人の特質

英國人の特質ともいふべきは、男女共に忍耐の力強く、自重自信の心厚くして剛毅沈着なる處で、いませう、例へばポリアの戦争を見ても英國人の性格は分ります、渺たる亞弗利加の一小國に對して三年の間戦争を續けて休まなかつた氣根は何ていいます、若も佛蘭西人であつた

ならば彼の多血なる國民は其の戰爭中國内に大動搖を來して迎も戰爭を續る忍耐はないてしやう、佛蘭西革命時代にナポレオンは歐洲の血を地中海に流し、ウラル山頭には血腥き風が吹荒んで一大悲劇を演出したにも係らず、彼の國內には革命の後に革命が生れ、暫くも動搖が止まなかつたてはムいませんか、之に比べると、ポーアの戰爭に英國人が少しも自ら疑はず、擾がず、惶てず、落付拂つて最後の勝利を得た態度に沈着がほの見ゆるではございませんか、俗に所謂氣の長い國民で、正義を重んずるのが特質です、隣國の佛蘭西が自國に對して何か過失ても仕出來すと、都會の其所此處に集つて、人々が佛を改心せしむるの法如何と謀議を凝します、凡てが正義自尊の判斷から他に干涉を試みる性癖のあるところから、英國人は世界の巡查だといふ批評がムいます。

この干涉的性癖は小兒の時代から養はるゝのです、禽獸を逆待し、又は殺さんとする者を見れば小兒でも其逆殺を止める、或貴公子が通り掛りに羊や豚に烙印をするところを見て、大に不憫に思ひ、牧者の前に立塞つて、どうか烙印をするのを止めてくれよ、左もなければ此處一寸も動かぬから、是非共烙印をするのなら余が額に先づ烙印をされよと主張して已まなかつた爲に、牧者は遂に困り果て、烙印を思ひ止つたといふ話があります、これは好き實例でございませぬ。

英國人はまた非常に田園を愛します、英國人程氣象の高尙なものはないとワシントン、アーピングは言てゐますが、これは英國人が田園を愛するからで、英國人は餘分の金さへあれば田舎に家を建てる計畫をします、米國人の金錢さへあれば市街の中央に高樓を立る工面をするのとは

丁度正反對でございます。

ワシントン、アーピングの言つた言葉に、英國の真相を知らうと思はば先づ田舎に行けと言てゐますが、英國の田舎は他國の田舎とは異り、上流社會と下等社會とが混交する場所でありますから、實によく國風の真相が分るので、如何なる貴公子でも田舎の別荘に行けば、自分で花を樹へ、水を遣りなどして山水風物を樂むのです、この田園的嗜好は英國人の先天的性質と覺しく、彼等はよく田舎の生活に馴れ、田園の業務に就ても又一種の手腕を有してをります、都會に住む間は種々の用事の爲に埋没され、殆んど器械的に生活してゐるので、人を訪問するにも早く話を切上げて、他の人を訪問する都合を計るとか、他の用事を早く足す算段をするなど、凡てが利己的で何となく殺風景に見えます、

と、其の冷淡らしいのは都會にゐる間のことで、一旦田舎に行くとき、全く器械的生活を脱し、虚禮を排して、天真に暮らすのですから、愉々如として心にかゝる雲のなき風情誠に翹すべきものがあります。

この田園の生活に於て、彼等は自然に接して親しく天然を研究し、宇宙の美妙なる配劑を認め、人生の真相を思辨し、などして浮世の誘惑を避け、靜に精神を修養するのです、音樂や美術、文學の趣味を感ずる上に於て得る處の多いのは云ふまでもありません、田園的感情の流鏝、これは英國詩人の長所とするところで、遠きはチャロルサーより近世の詩人に至るまで、其の詩中には自然美がよく描寫されてある、テニソンもスコットも巧みに自然を賦詠した詩人でございます。

英國人の特質ともいふべき沈毅堅忍の精神はこの田園的嗜好から生

れたものと云つても好い、田園的嗜好は國民の智徳體の三育に大なる關係を有するものであります、獨り上流社會が田園を愛するのみならず、少し許りの田地を有する農夫でも、其家の前庭に花園を造り、四季の花に天然の美を賞賛する餘裕があります、詩人の歌にも、し愛の神さまが人の家に宿り給ふならば、夫れは英國の農夫の住む茅屋であらうと謠ふてありますが、その生活の様が如何に優美であるかが想像さるゝてありませう。

英國人の愛國心に富んでゐる處は余程日本人と似てゐる處があります、歴史を見ても、皇系の古いのは日本の次が英國ですから、愛國心や愛君心が従つて強い、如何に黨派の争ひがあつても、一朝國に事があれば黨派の區別も何も角も皆忘れて仕舞ふのです、もしも國王の惡口を言

ふものがあれば、保守黨も自由黨も言ふでありませう、國王を侮辱するは英國全體を侮辱するのであると、如何に笑ひ興じつゝある席上でも一語國王の話が出れば人々は襟を正して嚴肅の態度を保ちます、以上は英國人の長所ですが、其欠點を挙げれば、保主的にして狭く、粗朴にして執拗、剛岸にして自尊に過るとでありませう、自分の國より他には善き國はないと思ひ、今猶或一部には貴族の風が残てゐるので、平民的なる米國人は、兎角英國人が應揚にして御國風を吹すのを喜びませぬ、又想像力、推察力に欠乏してゐるところから、他國民の心情を察して同情を寄することが出來ず、これが爲にポリアの戦争も起り、印度人は現に壓服せられてゐるので、これが大いなる欠點であると共に、英國人は余りに個人的に教育せらるゝ爲め、團體的精神に乏しく、獨逸とはこの點



に於て餘程異つてゐるのでございます。

### (九) 過去五十年の進歩

過去五十年間女子教育に力を用ひました結果として、第一英國婦人の體格が著しく強壯になり、従つて子女の體格もまた一變いたしました。女子教育の奨励と共に運動が大に奨励され、婦人はテニス、クリケット、男子はペリスポール、ポートルイス其他の遊戯が盛んに行はれて、名々が體育に心を用ふるところから、概して體格が肥え太つて血色もよく、如何にも艶かに壯健らしく見ゆるのです。多少は食物にも因りますけれども畢竟平生の心掛が好いからで、如何に老年になつても、隠居などをして安閑と暮すものではなく、死ぬるまで營々として働くのですが、ま

た實際死ぬるまで働くだけの元氣を持てゐるのです。

第二に女子教育の進歩の結果として裝飾術、即ち室内や其他外觀を裝飾する技術が餘程進歩致しました。教育を受けるに従て自然と理想も趣味も高尚になるから、鳥渡室内を飾るにしても、高價でなくも風雅の物を巧に配列して、見場のよい、如何にも趣の高い感じを起させます。單に家内の裝飾といふ一點から見ても、日本のよりもつと複雑で更に多趣味であります。或時日本の豪家を尋ねて其家を隈なく案内され、したが、客間と云い、座敷と云い、何の室を見ても簡単に裝飾されてあつて、殆ど文彩といふものがありませんから、其の譯を聞くと答が案外でありました。即ち其單純な處に一種特別の趣があるといふのであります。英國では室内の裝飾は大抵主婦の役目としてあり、主人が道樂とする

のもあります但其様のはほんの少数です、裝飾品や道具を餘計に持てる家では時々裝飾品を取り代へて室の趣を色々に見せる、日本の家のやうに平素は庫の中に藏ひ込んで置いて何か祝ひ事か賓客のある毎に取り出して飾るやうなことはせず寧ろ有りとあらゆる所有品を室内に陳列して置くのが風習です、日本の人が英國の人の室内を見たならば骨董店か陳列館にでも入たやうな感をおこすてせう、英國人の眼から見ると、家内の裝飾が餘りに單純なので、何處に日本の家庭の趣味があるのか少しも分らない、その單純な處に趣味があるといふのであれば、英國的趣味とは餘程違つてゐることが想像される。

第三に女子教育の進歩は家庭の整理と衛生の上に著しき結果を呈しました、教育を受た主婦のある家に行て見ると、凡てに科學が應用され

其の輕便なのに驚くのです、厨房などが清潔で整頓してゐるところから、隅々に注意が行届いて傳染病など引き入るゝ恐れがなく、萬事が秩序立て、成るべく手の省けるやうに出來てゐる、英國の婦人は男子と同じく公共事業に關係するから、澤山の事を爲さねばならぬし、色々な考案も立てねばならぬところから、自然時間の必要が起つてくるので、家内の整理、婢僕の監督法が發達するのであります。

第四には社交上の習慣が進歩したことでありませう、以前は女子の見識の低かつた爲に社會に盡す程度も僅かであつたのが、今では理想も趣味も高くなつたので、交際場裡に出て男子とも交り、公共事業に力を盡して、社會の利益を計るやうになりました、男女交際の行はるゝやうになつてから、男子は女に對する亂暴を止め、女子は次第に活動して社

會は大變化を來し、殊に家庭は著しき發達を遂げました。第五には婦人が慈善心に富んで、貧民學校や其他の慈善的設備に盡力をし、下等社會の進歩を計る爲に、所々に講義所のやうなものを設けて學術上や精神上の話をするとか、また圖書館を設けて一般國民の縦覽に供するなど、他の不幸に對して同情を表するやうになつたことでありませう、前にも述べました大學傳教なども大抵婦人が關係してゐるので、勿論好意の事業であつて報酬など取るのではありませぬ。斯の如く過去五十年の間に英國の社會は長足の發達を遂げました、これ全く教育の結果と云はぬばなりません、勿論中には無智な婦人もないではありませぬが、これらは學問の何たるかをも知らぬ例外に過ぎませぬ、學問は決して女を男の如く、男を女の如く作り上るものではあり

ませぬ、女子に高等教育を授ればお轉婆てんばにするといふ説もありませんが英國の經驗では教育の結果却て女らしく養成されました、また或人は女子の能力は男子よりも劣るといひ、高等の教育は健康に害があるなどと唱へますけれど、實驗の結果其過あやまちを證據立て、彼等は却て健康になりました、約つづめて言へば、英國の女子教育は世の非難に對して大勝利を博するに至つたのです、日本に於ても、今や女子教育勃興の氣運に向てあるので、其勝利を得るのも近きにあるでありませう、日本と英國とは日英同盟も結ばれたほどの關係であれば、互に手を携へて二十世紀の舞臺に活動を試みねばなりません。

以上は聊か英國風俗の一般をお話致したのですが、百聞一見に如かずとの諺もありますれば、讀者諸君が親しく我國に來遊せられんことを

望むのであります。



附 録

ヒューズ嬢談話集

## ◎英國の家庭

### (一) 英國家庭の長所

英吉利の家庭と日本の家庭とは大變に相違した所が御座います。其の重なる點を挙げますと、先づ婚禮を子息が致しますと、其妻即ち嫁を婿の住んで居つた家に連れて往かないで、新しい家に連れて行くと言ふ事で御座います。勿論親程金が無いから家の裝飾や其他凡ての事が單純であつて、親の家程立派でないのは當然の事ではありますが、兎に角我が國では新しい婚禮は新しい一つの家庭が形づくらるゝと云ふ意味で御座ります。それから佛蘭西の國の習慣は、小供が婚禮しても、英吉利の様に新しい家を建てないで、矢張自分の住て居つた古い家に連れて來

るのであつて、其風習は恰度日本に似て居ります。それで英吉利の人は常に佛蘭西風のホームの拵へ方と、英吉利のホームの造り方と那方が利益であるか、不利益であるかと云ふ事を研究いたして居りますが、經濟の點から申しますと、英吉利の家の拵へ方は佛蘭西よりも不經濟になります。何故なれば、英吉利のやり方は一々子息が結婚する毎に、凡て新しいものを拵へなければなりません。夫れをするには金が澤山に要ります。従つて子が一つの家庭を造るには、非常に澤山の金を親から貰はなければなりません。之れが即ち不經濟の點であります。夫れから又、英吉利國風の家庭の拵へ方は結婚すると同時に新しい家を持つのであるから、其主婦と成つたものが何も彼も責任を以てしなければならぬ。即ち、若い婦人が新しい家に往つて、今迄馴れない事を一

切行らなければならぬのであるから、之も又一の困難であります。其内には又子供が生れる、而すると愈々年若い主婦は馴れない事の難義な事が多くなつて來ます。夫ですから婦人の一番困難な時期は、この婚禮した當時で御座います。之も佛蘭西あたりの家庭に比較べると、若い主婦が年老つた人の傍に居つて其の經驗話などを聞く事が出來ない。自分て何も彼も考へてしなければならぬから、自然不利益な事が多くなるので御座います。けれ共、英吉利の家庭は其不利益を補ふ爲めに、一人て家庭を形造つて其責任の果す事の出來る年齢に達する迄は家を持つたと云ふ事を親が子供に言ひ聞かして置きます。夫から又夫になる人の方は、相當の收入若くば貯蓄ある迄は家を持つ

事は出来んと云ふ事に成つて居ります。結局女の方は年老者と一所に住はんから、其缺點を補ふ爲に、充分に主婦の責任を果す事の出来る様になる迄は結婚しない。又そののみならず、婦人が相當に年も取り智識も進歩してから、婚禮すると、生れた小兒も健康なる又智恵にも富んだ小兒が出来ます。夫れから又家の修め方も知つて来るから、良人に對し下僕に對する心得も覺えて来て、従つて面白く家を修める事が出来す。即ち趣味ある家庭を造る事の出来るのが、之れが英吉利風の家庭に於ける一の利益で御座います。

夫で家を治め、子を育てる道を能く知つて居る女であれば、夫れに伴ふ自由と云ふものは備はつて来るのです。夫れでありますから英吉利の家の治め方は總ての點に於て經濟でもあるし、又婦人に非常な自由を

與えて居る。夫れから婦人が婚禮をして、子供を持つても、其子供を自己の考へ通りに教育して行く事が出来る。英吉利の人は老人などは決して子供の事に就ては關涉しないので御座います。夫れで新しい家に於て、新しい母が自分の思ふ通りに小供を養育して行くと云ふ事は大變に小兒の爲めに善いので御座います。

英國でも日本でも同じ事で御座いますが、世の中と云ふものは始終變遷して文物習慣皆時勢に伴れて變つて行くので御座いますから、新しく家を持つ様な若い人が親とか、祖父父母など云ふ様な二三代先きの人々と一所に家庭を造るのは全く不可と思ひます。何故なれば若い者は若い者で今日の現在世の中に行はれつゝ有る所の様に依つて事を仕様とするし、又老人は老人で以前自分が行つて来た例を取らふとす



る。然らざるとどうしても何方か偏する様になります。老人の好む様にする。若い者が壓制になり、若い者の思ふ通りにすると、年老者の言を輕蔑する様に成つてしまうので不可ない。此等の點に於てどうしても種々の人が一所に成つて、家庭を造ると云ふ事は不利益であると思ひます。

### (二) 家政の整理及女子の教育

英吉利人は結婚を非常に貴んで、神聖なるものと考へて居ります。夫れであるから、新らしく結婚すれば必らず一つの神聖なる場所を撰んで住まなければならぬ、又神聖なる關係を續けて行くのは、大勢同居などして居つてはいかぬと云ふ事になります。

英吉利の家の齊め方は、良人が得る所の歳入金額を以て、家の總ての入

費にするので、豫め一ケ年に何程と云つて、豫算が決まつて居るので御座います。妻女は其定められた金額を以て自分の考案通りに支出して家を治めて行くのです。妻の方が澤山に金を持つて居る場合——これは度々ある事ですが——には、自分の小遣を算して残る金を何程々々家政の方へ出すと云ふ事を決る。

又良人の方が金満家なれば、妻の小遣として與へられた金は素より家の事には關係しないのですから、妻が任意に使用して宜いので御座ります。

婢僕は日本の普通の家に比較すると英吉利の方が人数は少ないが、其代りに月給も高いし、又能く働きまして、日本の召使の二三人位掛つてする仕事を英國の下婢は一人で致します。

英吉利の家の裝飾の仕方は、日本と違つて複雑して居りますから、掃除に大變手間が懸ります。けれ共英國の主婦は自分が先きに立つて掃除をすると云ふ事は無いのです。夫れが日本と違ふ點であると思ひます。結局英國の主婦は一家内の掃除其他萬般の事を一人で引受けてする事の出来る位の技量のある下婢を撰擇して、何も彼も責任を持たせますから、自から手を下さなくても間に合ふて行くので御座います。英國の母は大變に善い母であると云ふ事は、他の國の人が賞賛るところであるが實に英國の婦人は小兒を育つるに上手で御座います。併し自分が朝から晩迄督て居る譯では無い、中以上の所であると、適當の保姆を雇ふて小供に附けておくので御座います。又小供を育てる室が有つて、其所を養育室と云ふが、此室に當てる場所は家の中で一番好い室

を撰ぶので御座います。つまり空氣の流通宜しき、光線の充分に這入る閑静な室、小供は皆な寝る事も遊戯も此室で致しまして、八九歳になる迄は年長の人と一所に住むと云ふ事はいたしません。只一日の中に朝一度、午後に一度、都合二度位兩親の機嫌を伺ふ爲に、親達の室に来る。夫れから又た親も往々小供の室を見舞つて、保姆からどう云ふ風に注意されて居るか、と云ふ事を視察する。然して一時間か、二時間位小供等と一所に遊んで居るので御座います。斯ふ云ふ風でありますから、我が英吉利の小兒は常に養育室に居るか又は郊外運動に出るか此の二つの事で日を送るので御座います。

何故と云ふのに、どうしても大人と一所に居ると、大人の話も聞くし、又大人の行爲も見ると、自然と其れを真似る心を起す。又食事のやふな

ものも大人の食べるものを食べたがる。夜分寝るにも大人と一所に居るとどうしても早く寐る事を嫌ひますが、小供は成可く夜分は早く眠就させ、食事はなる丈け、大人の食物より軽い淡泊なものを與へる様に仕なければなりません。斯く種々の關係から、どうしても小供は兩親其他年長者と起臥飲食を共にする事は不利益であるうと思ひます。

### (三) 訪問及交際

訪問の時間は貴國では定まつて居らぬやうですが、英吉利では午後三時から六時迄の間が、人を訪問する通例時間になつて居ります。であるから若し訪問する人が、朝の内に來たり、又午後早々など來りし時は、要事の訪問でありますから、禮儀の訪問に對するが如くに、主婦などは必ずしも面會せんでも宜いので、決して欠禮と云ふ譯ではありませぬ。

英國では家庭が原となつて、夫婦子供夫れから極く親友間に於て交際致しますが、夫れは訪問時間にも無關係極く不規則に度々御飯なんぞに人を招待ので、小供は小供同志集まつて、お茶を呑んだりお菓子を食べたりして樂しみ、大人は大人同志相寄つて小さな晩餐會などを開きます。之れは素より親友間の事でありますから、或時は先方から訪ねて來ても今日は多忙から又來て下さいと云て、只歸して仕舞ふ事もあります。其然う云ふ時は斷はられた方も素より不規則に尋ねて往つたのですから、心持悪く感ずる様な事は無いのです。斯う云ふ事が即ち英吉利人の時間を空費せずして樂しみ合ふ親友間の交際で御座います。

御承知の通り、宴會の季節になりますと、知つて居る限りの人を集めて

晩餐會を開く事も度々あります。これは交際を擴める爲の主意でありまして、斯う云ふ風に度々出會致しますれば、始めは疎かつた人も段々親友に成つて来て、益々交際が擴くなつて、男女共に歡樂をつくす場合が多くなつて来る。日本にはどうも斯う云ふ無邪氣な交際をする場合が少ない様に思ひます。英吉利に於ては、結局社交的の快樂を日本よりも澤山に持つて居るので御座います。

夫れであるから英吉利の家庭では主婦が交際上手でないと困るので御座います。今若し一人の男子があつて、新に結婚した時に、交際下手の妻を撰ぶと、大變に傍から氣の毒に思ふ而已ならず、其男子は漸々人から撥斥を受けるやうになるので御座います。何故と云ふのに、前にも申した通り、英國では新らしい結婚は新しい家庭が成り立つのであるか

ら、つまり此の家の主婦に成つた人は、大なり小なり一の社交的中心とならなければならぬのであるから、良人が社界から聚る所の毀譽の多分は、主婦たるもの、交際の巧拙如何によると申す譯であります。

#### (四) 妻の内助

次に夫妻の事に付き御談しを致します。妻と云ふものは私が申す迄も無く、良人を一番善く知つて居る人であります。嘗に自分の家庭に於てのみならず、外に出て、も矢張、妻は良人を最も善く知れる人と認められて居るものであるから、良人の執る業務に對し、内に在つて補助るのは當然の事であつて、妻たるものは家務を監督し、夫を助け、或る場合に於て、或る點迄は、夫が執る事業に立ち入つて働かなければならぬ。或は慈善事業、或は政治上の事等、凡て夫が従事して居る業務を助けなければ

はなりませぬ。又教育のある婦人であれば全く良人とは異つた所の公務に従事する事が度々あります。

故に英國などでは報酬を貰はずにする公の仕事の多くは、教育のある伶俐なる婦人に依つて、成効する様で有ります。婦人を斯く教育すると依つて吾邦では四つの結果を見る事が出来ました。今其概略を申し上げますと(第一)吾邦で家庭教育を施して得たる結果として五十年前と今日とを比べまするに、外部の裝飾に於て非常に進歩して居る様であります。教育を長く受けた人は、趣味が自然と高くなるから、只だ高價にして人の眼を驚かす様なものを裝飾とせず、寧ろ價の安い高尙なものを使用やうになりました。之れが第一の結果であります。

(第二)家の監督の仕方及び家内の衛生が非常に發達したと云ふ事で御

座います。私の見た所では文明國中でも英米の家庭が一番善い様であります。第一厨房の清潔と云ふ段に於て、殆ど完全と云ふ位に衛生が行はれて居るのは英國が一番であらうと思ひます。之れも矢張婦人の教育が進歩した結果で御座います。社會百事の進歩に伴ひまして、成るべく短時間に成るべく澤山の仕事をせねばならぬやうに成つて来る。これは男子ばかりでなく、婦人も同じことでありまして、社交に於ては公共事業に於ても一旦關係する時には、及ぶ限り澤山の仕事を爲なければならぬ。夫れで時間が益々必要に成つて来るから、時間を節約する爲めに家の監理、下僕の監理が上手に成つて來なければならぬ。此等の點から斯く發達したのであらふと思ひます。

(第三)小供の取扱方が大變に上手に成つて來た、母達が打寄つて會を組

織してどう云ふ風に小供を取扱つたらよいかと種々研究して、良法を實行するのが多くあります。つまり小供を育てるのに、偏頗の愛を持つて可愛がらない。併し又餘り厳しくもしない。其中庸を取つて行くと云ふ事を望んで居りますが、之れも矢張り婦人を教育した結果であらうと思ひます。

(第四)は社交上の習慣などが大に進歩して來た事で御座います。昔は實際するにも婦人の教育が低くあつた爲めに、交際社界に婦人が顔出さなかつた。何故なれば會話を男子と一所にする事が出来なかつたからです。然るに教育が進むに従つて男女相携へて交際場裡に出るので、話も面白く趣味清潔になつて來た。亞米利加では贅澤な事を喜びますが、英吉利人は贅澤は野卑であると云ふ考を持つて居りますから人を招

待するにも澤山に食物を出して、人を喜ばせると云ふ事はしない。只だ交際の仕方、話の仕方が面白く、且つ有益であつて可成人に愉快を與へると云ふ事を勤める様になりました。之れが第四の點で御座います。(第五)此の四ヶ條の外に尙一つの得た事は、教育を受けた婦人を妻にする、夫婦の關係が親密に成つて來る。何故かと云ふと、教育のある婦人になれば夫の思ふ事に同情同感を寄する事が出来るから、夫の方にも何事によらず相談をすると云ふ事に成つて、自然に夫婦間が親密に成つて参ります。

### (五) 婦人の日課

次には英國の婦人が一日の間に於て爲す事の大略をお話いたしませう。

英國では大抵朝は七時に起床きて冷水浴をする。八時十五分前に一族打ち寄つて祈禱をする。祈禱の時には小供、奴僕も皆一所に集まつて致すので御座います。夫れから八時に朝の食事を致します。此時は養育室に居る様な幼い小供は列しません。けれ共少し大きくなつた小兒は矢張食卓を共にする。

若し宿り客でもあつた時は客人も一所に種々御話ししながら食事を致すので、元來食事は一種の交際で、食事中には色々愉快な談しをして楽しむので御座います。

食事が済むと、運動に往くものは往き、學校に行くものは行く。夫れは自分の職業の場所に行く。婦人は家の取締に付いて事務を執り、それが終ると今度は手紙でも書くとか、或は公共事業に従事して居る人ならば、其

事に就て奔走する。夫れから今度は二階の養育室に往つて小兒と暫時話などなして遊ぶ。其の内に正午になる。英國では大抵一時か一時半頃に晝飯を食べるので、主人は大抵晝には留守ですから、學校へ行つた小兒が歸つて来て、若し朋友があれば夫等と一所に母親を主人にして面白い談などをしたり、又は學校で聞いてきた事などを語り合ひて愉快に食事を済します。食事がすむと主婦は大概大きな子供などを伴つて、運動に出掛ける。其後で他を訪問する要事などがあると出掛けるので御座います。他から歸つて来ると、今度は又二階の養育室に行つて、小供が寢床に行く前に暫時談しをする。大抵午後七時には晚餐を致すのですが、其時には夫が歸つて来るから、其準備をするのであります。晚餐の時には、其人或は自分の友人などが、一二人位食べに来る事は普通の様

になつて居ります。夫れが済むと夫婦打つれて、運動に出掛け或は劇場などに行く事も御座います。之れが先づ普通の家庭の一日の有様で御座います。

### (六) 夫婦の親和

英國では夫婦の關係が他の國よりも一層親密の様に思はれます。此事に就て私は度々人に向つて話します。共往々私の言をお信じあさらん事がありますから、之れを證する爲めに一ツの昔話を致したら、始めて人が感じた事がありますから、其話を一寸申上げませう。

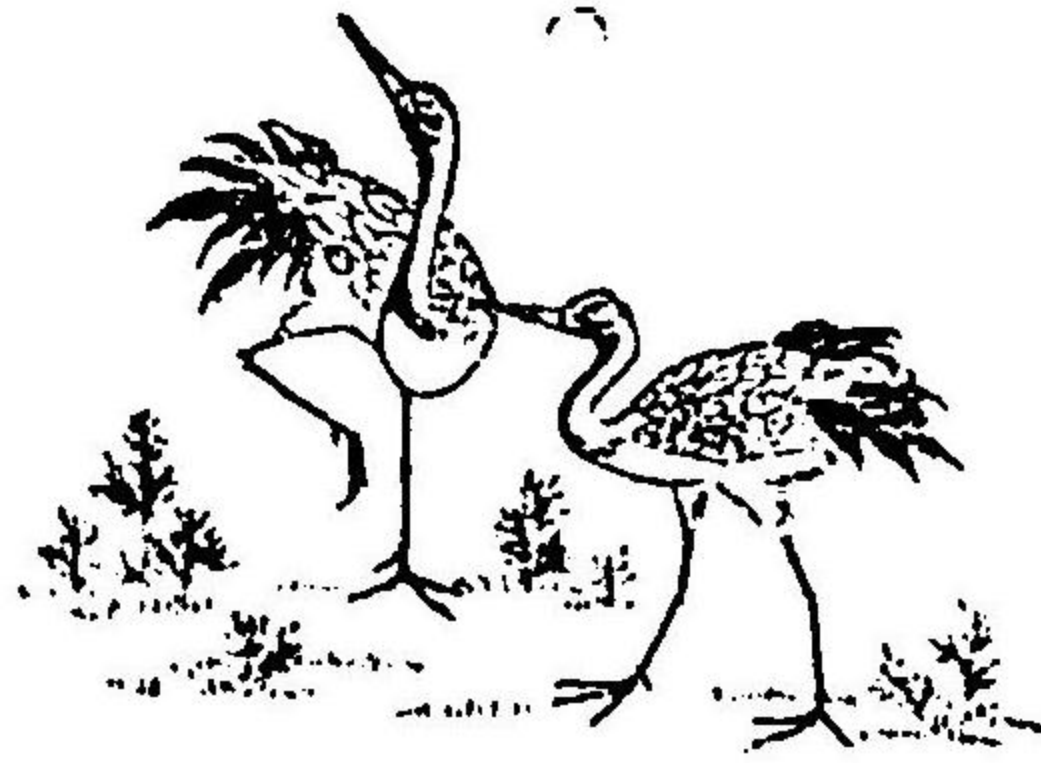
或る所に一人の王様があつて、其奥方との間に一人の世嗣があつた。所が戦争があつて、王様は戰場へ臨まれた。其時に國內が非常な飢饉であつたので群臣が評議して、之れは饑饉の神様が御腹立になつたのであ

るから、何か國中で一番大事なるものを饑饉を起す神様に犠牲として上げたら宜いだらうと云ふので、其時王様は御留守であるし、何が一番大切だらうと云つた所が、奥方が「夫れでは私が犠牲になる」と申されまし。た。而うすると、多くの僧侶達が考へて、一番大切なものは奥方ではない。此の御世繼であらうと云ふて、其御子様を縛りに往つた。所へ戦地から王様が歸つて來られて、奥方が王様に向つて斯う斯う云ふ譯である。と話された所が、王様も如何して好いか分らんで思案して居る内に、最う時間が來たから早く捧げなければならんと云つて、皆が小供の咽喉を締めて括らうとした。而うすると母の慈愛でそれはならんと云つて、飛出さんとせられた。而うすると王様が「此國中誰よりも私の一番愛するものは貴女である」と云つて抱き止められた。そこで奥方は「王様の一



一番大事なものは私であるから、つまり國中で一番大切なものは矢張私してある』と云つて。自分から殺される人に成つて仕舞はれたと云ふ話があります。夫れであるから矢張、良人の一番愛するものは小供よりも妻であると言ふ話で御座います。

(完)



### ◎英吉利の元日

去る二十九日午後、ミス、ウエストンの紹介にて英國女子高等師範學校長ミス、ヒューズを平河町なるミス、カー方に訪ねましたら折好くも在宅で快く私を迎へられ直に階上なる其居間に導かれまして、色々親切に話しを仕て呉れました。嬢と對話中一番感じましたのは、外國婦人の人に對して心切なる事御座います。其位置才能等より申せば、嬢の如きは高尚な位置を占めて居る人でありながら、少しも尊大ぶると云ふ事はなく、私如きものに對して溢るゝ許りの真情と熱誠とを以て、懇ろに話されるので何となく懐しく今更ら某外國婦人の手に成つて居つた學校に生徒となつて居た時代の事など追懐致し

ます。此に一ツをかしかつたのは、嬢が私に向つて、『日本でも貴嬢方が  
 他を訪問するのは矢張り日曜の午後と決めてあるのですかと問は  
 れたので、私も之れには一寸返答を仕兼ねて、夫れは何故ですかと反  
 問致しましたら、『イヤ私の國では婦人の新聞記者が人を訪問するの  
 は日曜の午後と決めてありますから』との事に今更ら負け惜しみに  
 然ですとも答へ兼ねて、『エ然云ふ譯ではありません、今日は偶然御  
 訪ね申したのですが、それなら以後私も此日に他所を訪問すると決  
 めませうと云つて笑いましたで、此時聞いた話も色々ありますが、今  
 日は英國の元旦の模様を載せまして、引續き英國の主婦の働作及び  
 家庭に於ける主婦の責任等に就て聞いて參つた所を掲げる事に致  
 します。

英吉利では日本の様に新年を迎へ今日が元日であると云つて、際立つ  
 て喜ぶと云ふ風はありませんけれど、十二月廿五日の耶蘇誕生日から  
 新年に掛けて十日間の間を慶賀の時として居つて、其時には結婚して  
 他へ行つて居る子供を招寄せたり、又諸方に分れて居る家族が皆な寄  
 集り一家團樂して楽しむと云様な事を致します。此際往來の店では新  
 らしいものゝみを飾つて賣つて居りますが、之れらは皆耶蘇誕生日か  
 ら引續いて居るので御座います。日本では松を飾りに使ひますが、英吉  
 利では柊ひいらぎを使ひ、之れで耶蘇誕生日の木を包むのが一番初めで、家の中  
 も青葉で飾つたり何か致します。此の一月の間は晩餐會を開きまし  
 て、互に招應致し、元日には男女共に能く遊獵に出掛け、又た氷溜りなど  
 をもして遊びます。英吉利の人は何をしても家の中に斗り引込んで居

ることを嫌ひ、多くの戸外の遊戯を好みます。夫れから英國では元日よりも大晦を大層盛んにやる例で、この日は人々が種々の面白い事をやります。尤もこれには三ツのやり方があつて、一つは大晦の晩には家内中集まつて大騒をし、常には就眠時間に制限のある小供等も此晩だけは遅くまで遊ぶ事を許されて、老人に至る迄も舞踏に夜を更かし、教會で鐘が十二時を報ずるを合圖に止めるので御座います。夫れからモーツは所に依つて違ふのでありますが、私の住まつて居る近傍の習慣は、朝も未明早々に衆人が茶碗の中に木の枝を入れ、夫れに少し計り水を入れたのを持歩ひて人にかけて、新年御目出度と云ふので御座います。これは一年中幸を得ると云ふ故事からあつたので。次に、も一ツの習慣は大に人を感働させる方法で、十時頃一同教會堂に

集り、盛んなる禮拜式を擧げるのであります。此時は平常會堂に來ない人も残らず寄つて來るのであります。會堂は溢るゝ計りの人數で十二時十五分前と云ふに、残らず隣跪いて黙禱を捧げ、正午十二時より十五分間は極々沈黙に祈禱を行ひ、終つて鐘の鳴るを合圖に一同起立し、新年御目出度と祝詞を述べるので御座います。夫れから先程も申し上げました様に、此耶穌誕生日から新年に掛けては家族共が皆な一所に成つて遊ぶので御座います。耶穌誕生日の前の晩になると、小供が長い靴足袋を室の外に掛けて置く、即ちサンタクロースが來て、色々なものを入れて呉れると云ふので成るべく大きいのを下げて置きます。勿論夫は家の阿母や何かが入れて置くのですが、わざと塵芥などを拂ふブラシや何かの様な小供の

喜ばぬものを上の方に入れ、段々下の方に好い物を入れて置きますので其朝は小供達は早くから起き白い長い寝衣のまゝで室の外へ駈出し、其下げて置いた靴下を開けて見る。之れが子供の一つの楽しみで御座います。

又或る所では耶蘇誕生日の二三週間計り前から、澤山の人が一所に成つて、樂隊を先きに歌を唄ひ廻る習慣ですが、朝早く二三時頃から四時の間に家家を廻り主婦の名を呼んで『御早う御座います。モウ何時になります。大變に好いお天氣で御座います』と云つて起し歩くものですか。何れの家でも早く起きて、其人の唄う祝ひの歌に耳を傾けて聞くので御座います。之れが所に依つては毎朝、又は一朝隔に來るので御座います。が、愈々耶蘇誕生日の朝に成りますと、大きな聲で『耶蘇誕生日お御

目出度う御座います』と呼び歩くので、此時はお金なり物なりを其人達に遣るので御座います。之れを英語では『ウエツ』と申して古い習慣の行はれて居る所では今も盛んに遣つて居ります。

耶蘇誕生日當日には朝は教會堂へ行き、夕方からは大きな晚餐會を催します。晚餐會は自分の親類縁者のみをあつめて開くので、此時には、大きな七面鳥を食べるのを例と致し、知己の間には夫れから此日は贈り物の取遣りが盛んに行はれます。贈り物の取替はせは元日にも矢張行はれましたが今では廢れて以前程には行はれなくなりました。



## ◎子女の教育に就て

## (一) 忠君愛國の氣象を養成する事

忠君愛國の氣象を養成するには、日本の歴史を學ばせるのが一番宜しいので御座います。愛國心の涵養は一國の盛衰にも影響を及ぼす様なことで實に大切な事であるから學校に於ても家庭に於ても、勉めて愛國心を養成せなければならぬ。尤も日本國程國民の愛國心に富んで居る國は他に無いと思ふ位で、彼の支那戦争以來、非常に愛國の精神が充満して、戦争の當時など、云ふものは特に著しかつたと聞及んで居ります。

茲で一寸御斷りを申上げて置かんければならぬのは私は今日英吉利の

婦人としてお話を申上げますから、時とすると諸君の國家には不適當な事を申すかも知れませんが、之れは只私が思つた丈の感念を申すのでありますから、若しも違つて居ると思召す角があつたら、必ずしも私の説を御採用下さらずとも諸君の信ずる所の方法をお執り下さらん事を希望いたします。

私の思ひますには、先づ忠君愛國の心を養ふのは、日本の歴史を研究するものが最も好いと思ひます。其れも單に無味乾燥なる所の事實及び年月などを暗誦させるなど云ふ事は害があつて益は無いと思ひますから、最も必要とするところの點則ち、何の時代には如何云ふ類ひの出来事、又は大なる事件が起つて、之れが如何許り日本の進歩に影響を及ぼしたかと云ふ事を、賢く教へ込む事が必要であります。

夫れであるから、學校に於ても家庭に於ても、常に其邊に心を用ひて、教導すると自然に愛國心に満ちて、國に忠なる國民を養成する事が出来ます。

尙一つは、地方的歴史を教へる事が必要であります。即ち、何れの縣からは何う云ふ大人物が出たとか、或ひは此場所は大事件が起つた所だとか、或ひは、戦争があつたとか、或ひは、大人豪傑が起つたと云ふ事に付いて、土地の歴史を教へ込んで、而して自分達の郷里から斯う云ふ豪傑らしい人物が出たから、兒等も其の人達に負けない様にと云つて昔の事柄に付いて巧みに土地の歴史を教へると、小供等も吾々は昔豪傑人の出た土地と同じ所に生れたのであるから、是非共立派なものにならなければならぬと云ふので、自然に忠君愛國の精神を養ふ事が出来様と思

ます。而う云ふ風にすると、又大變に小供が趣味を以て地方の歴史を研究する様に成らうと考へるので御座います。

### (二) 國旗を崇むるの大切なること

忠君愛國の精神を養成するには、國旗を崇める事が大切であります。亞米利加にては、到所各學校に國旗が備へてあつて、著しく尊敬の意を表して居る、勿論貴國に於ても、各學校のみならず、各國民の家々にも國旗が備へてあると聞きましたが、併しながら單に備へてある斗りては何の役にも立ちませぬ。國旗は如何なる意味のものであると云ふ事は、諸君も御承知でありませうが、國旗は即ち其國の記號でありますから、學校に於ては、勿論の事、家庭に於ても、常に國旗を小兒に示して、天皇陛下を崇め奉ると同じ心を持って、此の國旗のためには、如何なる艱難にも

堪へ、自分の命をも捧げると云ふ決心を持たせるのが一番肝要な事であり、國旗は寶物として仕舞つて置くべき爲めに拵へたものでもなく、又祝日祭日の裝飾に拵へたものでもありませぬから、師たり親たるものは國旗の何物たるを辨へて、其意味を子弟に了解させると同時に其を尊崇する精神を養はなければなりません。之れが即ち、忠君愛國の精神を養ふに就て最も大切な事柄であると思ひます。今一つは古來の豪らい人物、即ち大人豪傑と云ふものゝ寫眞或は、書畫等を學校の教室、又は家庭なれば小兒の遊ぶ室に掛けて置いて、小兒をして、其を見て自分も斯う云ふ立派な人に成りたいと云ふ心を起さしむるも、愛國心を養ふに就て必要な事であり、ます。

### (三) 女子の愛國心涵養の方法

主に女子に關した事であり、ますが、女子に愛國心を養成するは、婦人が其家務を整理するに當つて、單に自分のため、家族の爲め、衆人の爲ばかりでなしに、自分達が家の務めを執つて居るのは、矢張り國家の爲である、日本の國家のために男子は戦争にも出て、政事にも參與するが、女子は家務を取るのと云ふ精神を養成して家を務むるに當つても公けなる側の方を能く見なければなりません。女子をして、此の如き精神を抱かしむるのは、國家に取つて大なる影響を及ぼすであらうと思ひます。然らば女子をして、如何にしたら好いかと云ふと、之れは婦人をして一國一縣の政事に與つからしむる様にするのが宜しいと思ひます。何故かと云ふに婦人も公事に關係して居ると、自分も矢

張り此國の國民である、男子と等しく國家の爲めに働いて居るのであるからどうか此國家の爲めに盡したいと云ふ精神が起つて來るからして自己の家務を執るに當つて國家と云ふ事とが離れぬ様になりま

す。  
吾が英國に於ても婦人は政事に參與する事は出來なかつたのでありますが、近年に成つて婦人にも其の權利をあたへてからと云ふものは、婦人に愛國心が増加して來たやうに思います。で矢張英國でも、以前婦人が政事に關係する事の出來なかつた時分には、國家に對する婦人の感念が誠に薄弱であつたのですが、近頃婦人に種々の政事上の權利を與へてからは婦人の愛國心が増加して來ました。でありますから、日本でも婦人に眞の愛國心を起させ様とするなら、多少政事に關係させるの

が宜しからうと思ひます。私も貴國へ参りましたから、随分諸方を遊歴いたしましたして、下等社會の婦人にも澤山而會て種々聞いて見ましたが中には全然日本と云ふ事を知らぬ婦人さへあるやうで御座いました。尤も何れの國へ参りましても最下等の婦人となりますと、此精神のあるものは乏しいので御座いますが、併しながら出來得る丈には種々の方法に依つて此心を養成いたしたいものであります。

#### (四) 修身教育の方法

次には貴國の如く、宗教主義を取らずして教育を施す場合に付いて恐見を申述べませう。

私の國では御承知の通り、宗教を學校で教へる事に成つて居て、佛蘭西や亞米利加や日本の仕方とは違つて居ります。此三ヶ國では宗教を學



校では教へまい事になつて居ります。それで斯かる事に付いてお咄するのには困難に感ずるので御座いますが、先此點に付ては重に學校教育に付て申上ますが、家庭の上にも立派に應用することが出来やうと思ひます。其の方法はどうかと云ふと、學校へ往て教場に臨んだ時に往々生徒の欠點を見るのが御座います。此過失が單に一人の小供の過失であつたら其者に充分説開かして置き、又生徒全體が同じ様な過失をしたら、教師自身は之れは己れが悪いのでは無いかと云ふ事を反省なければなりません。若しも自分に悪しき點があるので有つたら、其儘生徒を教導して往く事は出来ませんから、自己の身を反省して自己の過失を改悛してから、生徒に臨まなければなりません。私も永い間女教員を養成する學校に居つて、私の教育を受けた者も澤山ありますが、私は此

人達に向つて常に自分の身を反省して自分の行爲を正しくして、然る後生徒を養成せよと云ふ事を忠告して居ります。多くの小兒中には透明で真直で決して偽言も虚言も云はぬ兒もありますが、中には又随分爾うてない者もありますから、教師自身が精神を真直に取つて、眞理を解するものでなければならぬのです。教師自身が爾う云ふ風に行つて参ますれば、生徒も自然に爾うなるだらうと思ひます。之が私の第一の持論で御座います。

其外何んな學科を教へるにも各々機會がありますから、文學は文學、理學は理學と、その學科に付いて教へる間にはいくらかも修身を教へる機會がありますから、飽く迄も其機會を巧みに捕へて教へ込んで往く事が必要であります。強ち宗教に依らずとも倫理を教へて行くことは難

い事で無いと思ひます。なに宗教と云ふものゝ倫理は何處の國へ往つても一様であつて、決して悪い事を行ふのが善いと云ふ様な宗教は無いので御座いますから、倫理の點丈を採用して、夫を利用して行くのが宜しいと思ひます。私は日本へ来て諸方の學校へ參つて倫理の教授法も見ましたが、教方が誠に好い様に思ひました。

小供も段々生長して參りますから、夫れに従つて小供に道德上の理想と云ふもの……高尚なる理想を腦裡に吹込なければなりません。兒童が學校に居る間、或は親の手許に居る間は短いもので、馳せて世の中に出て、教師及父母の手を離れて獨立して行かなければならぬのであるから、兒童である間に能く／＼倫理を教へて、他日彼等が進んで仕事をすゝる事が出来る様に仕なければなりません。そこで兒童の行爲に付いて

は萬事斯う云ふ事は悪い、斯う云ふ事は善いと云ふ事に付ては、何う云譯で惡ひ、何う云譯で善と云ふ事を一々道理に照して説明して教へ導かなければなりません。凡て斯う云ふ風にして學校と家庭で心を併せて養成して云つたならば、屹度兒童の行爲が、眞直な倫理に適ふた様になるものであらうと、私は信じて居るので御座います。

### (五) 節約の氣風を養成する事

主婦としては、節約を守ると云ふ事は最も大切なことであります。併し世の中の人は兎角貨幣を貯蓄と云ふ事の方に多く注意して居るが、貨幣をどう云ふ風に用ひたら有益であるかと云ふ事にあまり氣を付けないやうで御座います。私の思ひますには貯蓄する事よりも、費ひやす所の方法を知る事が最も必要であらうかと思ひます。

世間の人は申しますのに、男子と云ふ者は財を拵へる事を専務として居つて、婦人は財を使ふ事を考へなければならんと云ふが、之れは理由がある事と思ひます。家を整理して往くのは婦人の任務で、殊に一番困難い事で御坐います。實際世界各国何れの國でも、いま家を整理して往く事は下手であると思ひます。殆ど何れの國へ行つて見ても、財産と力と、時間を無益に費ひやして居るのが多い様で御坐います。近頃追々と學理を家政にも應用する様になりましたが、實際を取調べて見ると、眞に學術を應用しては居らぬ。夫は何故であるかと云ふと、學術をば應用する道を能く教へて無い。之れは斯うく云ふ風にすると、好い。彼れはあゝ云ふ風にすると、金も手間も僅かて濟むと云ふ事を充分教へて無い爲めに、自然と不經濟な事をする様になるのです。夫れに就て私の

考へには、家政に關係した所の學校を創立して、學術と實地と相俟つて、家庭を整理する方法を教ふるのが、一番宜ろしからうと思ひます。恰度醫者に成るのには醫學校があると、同じ様に、家を齊のへるものには矢張り家政の學校が必要であらうと思ひます。

### (六) 學校と家庭の連絡

英國では上流から中流の人の往く學校と普通一般、則ち中流以下の人の往く學校とは別に成つて居ります。普通の人の行く學校はミッドルスクールと申しまして、之は中流以上の人は決して入校らないので御座います。夫れから中流以上、上流の子弟の往くのは、セントルスクールと申しまして、之は則ち貴族の學校で御坐います。此校へは皆七八歳位の幼年時代から入學して、十九二十歳に至ります。學校の目的とすると

ころは、學術を教授するよりも、却つて英國の紳士を造る事を目的として居るので、人物の品格を養ふ方に眼目を置いてゐるので御坐います。セントルスクールと云ふは、男子の學校でありますが、夫れと同じ様に矢張り中流以上、上流の女子の往く學校に、ハイスクールと云ふのがあつて、其學校でも、紳士に對する貴婦人を養成するのを目的として居ります。即ち品格を養成するのを目的として居ります。斯う云ふ習慣は單り學校許りでは無い家庭に於ても、尠なからず注意いたして居ります。が、私の考へではこれは誠に好い致し方の様に思はれます。

(七) 教育の眼目

英國では米國などの致り方と違つて卒業と云ふ事が無い何時までも學校へ往つて居る間は生徒であるのです。而して大學へても這入ら

うと思ふ人は、大學から派遣した委員が來て入學試験をするのであります。が、其他には試験は致しません。尤も英國でも全然試験を爲さない譯では無い時々試験は致しますが、決して學課に就て點などは付けません。只品行で點を付けて行くで御坐います。でありますから若しも生徒が偽言でも云つた時には、學校にては、嚴重な罰に處するので御坐います。夫であるから、家庭に於ても實に品行の點には注意いたしまして、小兒が些かでも虚偽の言行などがあつた時には、親は那の位嘆くか分らん位であります。兎に角私の國では學校でも、家庭でも、智識を注入する事を第一の目的としない。只其學術に就て其の人々の性質の如何を悟る事を第一の目的として、其欠點とする處を見出だした時には、師たり親たる人は充分に撻めて遣るので御坐います。私が貴國へ出發する前

に私の教鞭を執つて居る所の學校の一級に付いて、此級の中で誰が一番好い人と思ふかと云つた所が、生徒が考へて云ふのには、誰々さんは一番好い何故かと云ふと、一番品行が正しい。夫れから誰々さんは遊戯が上手だから、二番である。誰々さんは一番勉強家であるから三番である。と申しましたが、之れが英國人の眞情で御坐います。即ち一番と云ふのが、品性の好い人、二番目が遊戯の上手な人、三番が學問をする人で御座います。

夫れから又英國の學校では、多くの子弟を預つて之を教導するに付いて、學校は學校の信する所の方針を確く執つて、父兄の我儘なる意見などを入れると云ふ事は決して致しません。故に時とすると父兄が怒つて來る事などがありますが、而う云ふ時には、學校にては、決して先方の

云ふ事に服従などは致しませんで、此學校の執る方針が嫌であるならば、生徒は何れへなりとも轉校をさせて呉れと申します。勿論斯る父兄は澤山はありませぬ多くは皆其の學校の方針を遵奉して、家庭に於ても學校と意見か懸隔しない様に連絡を相通ずることに勤めて居るので御座います。

### (八) 女子の結婚

夫れから女子の婚嫁の事に就て申しますと、吾が英國にて五十年前には女子教育と云ふものが、左程盛んで無かつたが、追々と進歩して今日では、非常に發達して參りました。夫れがため女子の學ぶ學校も澤山ありまして、又其教ゆる所の事柄も、以前よりはずつと廣く且つ深く成りました。其結果として遂ひに、結婚の時期が遅れる様に成りました。私の

時代には婦人が十五歳位から結婚し始めて十六、十七歳位は普通で御座いました所が此頃では私が教へて居る生徒も其位の年配で結婚するものは殆んど無い様になりました。早くても二十歳が止めに成りました。之れは大變に利益で御座います。何故と云ふのに、年を取れば夫れ丈け智識も増し、身體も發達して居るから、道德の點にも才智の點にも健康の點にも凡ての上にて於て利益で御座います。之れは單り自己の身に益を享くるのみならず、良人の爲めにも、小供の爲にも利益で有つて延ては國家のためにも大いに益があるのです。

日本に於ても目下女子教育の聲が非常に高く成つて來ましたから、其結果已むを得ず、婚嫁の時が遅く成るであらうと思ひます。併し之れは誠に好い事で、年を取れば夫れ丈け智恵も増し、學問も進みますから其

進歩は日本國家のために段々善い事であると私は考へます。(完)



## ◎華族女學校生徒諸子に告ぐ

左の一編はヒューズ嬢が華族女學校を參觀したる折同校生徒に向つて演説したるものなり、

私も殆ど三十年前には諸子の如くに學校生徒で御座いました。三十年と申すと云ふと實に永い年月であります。併しながら私は此年月を、決して今も忘れて居りません。昔の事を思ひ出しまして、學校生徒の時分に、何う云ふ事を考へて、何う云ふ事を感じて居つたかは、今日能く々思ひ出す事が出来ず。此三十年の年月の間、私は實に困難の事業に當りまして、其事の爲めに、學校の生徒と一所に住んで居りました時も御座いました。されば私は老年……只今お開きに成つて居る御方は、お若年

方でありませう。其世間には決して差別が無いので御座います。従つて私が心に考へ、私が思ひ、又感じて居つた事は、矢張諸子方が考へて居る事と少しも差別はありますまいと考へます。

私が曾て風の無い波の立ちませぬ口に、港の邊へ行つて二隻の船が互に徒來する所を見た事があります。其内の一隻の船は港を去らんとして居りますし、一隻の船は港へ這入て來る所で御座いました。今出て行かふとする船は、新らしい船で、新奇に造つて未だ航海を経て居りません。故に、ペンキも新しく、帆も新しく、何所も清潔で、少しも汚點と云ふものの無い新しい船で御座いました。一方の沖の方から港へ這入て來る船は、幾度も航海を致しましたから、波や風に遇つて、其爲めにペンキも流れて仕舞ひ、帆は彼方に此所に綴接がしてあつて、甲板も元の板は存じ

てゐない様な船でありました。此時私は一方の船即ち古い船が新しい船に注意を與へてやつて呉れる事が出来れば宜いと思ひました。今日こそ斯くして茲に立つて居りますければ共、私も永い年月の間世の中に暮らして、人の生涯の荒波は兎に角經て來て居りますから、いさゝか荒波の如何は存じて居ります。然るに諸子は皆妙齡のお方で御座います。人生の荒波に馴れて御出に成らず、かたゞ經驗も御持てない。私の眼から見ると、御經驗の無いお方……即ち社會の風波に遇つて居らぬ御方としか見えません。其お方が少しの中に、人生の波の烈い社界に出なければならぬので御座いますから、其處で私は一の古い船として、諸子……新しい之から社界に出て行かうと云ふ所のお方に向つて、お話しを致す積りて御座います。共遺憾ながら日本語を善くしません。

爲に、日本語にて私の思ふ事を充分皆様に吐露する事が出来ないかも知れません。

何か有益なる事をと存じまして、昨夜考へました處是に六個條の事柄を考へ付きましたから、今日は其を御話し致さうと思ひます。どうぞよくお聽を願ひます。

第一の點は皆様が歡ばしく嬉々然として喜びて人生を過ごさん事て御座います。人生は私共が期待せしよりは、遙に不思議に又趣味多いものであります。薔薇を見た人は、誰れも其の美麗しき事を感じます。共、其刺のあるのは心得て置かなければならぬ。人の此の世の中を渡るにも困難と云ふものは常に之れに伴ふので御座います。嫌な事も必ずあるので御座います。學校に居ります時、私が熱心に考へました事



は、人の生涯と云ふものは、どう云ふものであらふか、此先き勉強して學校を出たら、果して愉快に暮せるか、或は不幸であるかと云ふ事でありまして、此點に付いては諸先輩方にも尋ね、又已れ自ら考へた事も御座いました。或る人は人生は實に困難と悲哀とて満ちて居て夏の中天に懸つて居る太陽が人を蒸し殺す様に苦しいものだと言ひ、又ある人は人生と云ふものは然う困難なもので無い、段々世の中に出て、年を取つて來るに従つて、幸福になるものであると。斯う云ふ説を採る者もありますが、私の考へには、人の生涯と云ふものは、歡ばしいものである、樂しいものであると云ふ方が或は有益で且つ論理に近いかと思はれます。私は學校に居つた時分に、人の生涯と云ふものはどうしても不思議なもので、人生は有益なものである、有益でなくては成らんと云ふ説を考

へて、而して其方面に向つて勉強をする事に致しましたから、今日年を取る様に成りましても、人生は矢張幸福と愉快が満ちて居りますのみならず、此頃では稍々物も知つて來ましたが、若き時には年が長じたらば、外國をも見て、違つたる風俗、人情、制度、婦人の状態、其外の業務を穿鑿し、又困つて居るものがあるなら夫れを援助の手を與へて助けて遣らうと云ふ様な考を持つて居りました。と申すのは、何しろ人と云ふものは、萬事萬端の判断を成すのに、自づから力があつたなら、其力を善い事に成る様にと、働かすのが、一番有益な事と考へたからであります。小供の時に學問をした其學問が、後に成つて何の利益があるかと云ふと、如何なる學問でも學んでさへおけば、夫れを用ふる所の機會はいくらも出て參ります。年を取つてからは、何程學びたいと思つても、最早學ぶ機

會が無く、學校に居る時學問を爲すは實に好時期で御座います。其時は爲めになるまいと思ふ事も、後ちに成つて非常な役に立つ事が御座いませう。されば、學校に居る時は、諸子が世に立つ準備の時、御座いますから、此時の時間は必ず學問に熱中せられ、専心誠意之れを學習せられん事を希望するので御座います。

第二の點は、歡ばしい方の側で御座います。人の生涯が不思議で、又趣味のあるものであると云ふ事を、お信じなさらん方があるかも知れませんが、私は之を信と思ひます。熱誠にあれば、自分の生涯も思ふ通りにする事が出来る、即ち自分の欲するが如くになす事が出来るので御座います。私は境遇が悪いとか、私は貧家に生れたからいけませんとかいつて、なんにもしない人が御座いますが、これは自分の生涯を善くしやう

と思はない人でありまして。其人自身の過失で御座います。又た自身は賢くないから、外の人即ち金のある人、智慧のある人が、行つたら宜からふと云つて、他人に譲つて了つて、自分は一切進みも退きもしない人が御座いますが、之れも大なる間違でありまして、昔から所謂大人豪傑と稱せられた所の男女の傳記を考へて見ると、實際斯の人々は、自身で自身の境遇を造つて、而して己れの生涯を意志通りに過して行つたのに外ならないので御座います。私の祖母は、私自身で申すと、何だか可笑いやうで御座いますが、大變に賢い人でありまして、小供には決して出来ません、止めると云ふ様な事は云はせません、必ず出来る、致します、試みにせう、と云ふ事を言はせましたし、又自分でして見て、出来る事は必ず小供にも出来る事だと諭してくれました。日本には羊が

多くありませんが、英吉利には澤山御座いまして、弱いものは羊の様だと申しましたり、又羊は恐なもの、譬にも成つて居ります。或る時恐くなる羊が生垣を飛び越え塀を飛び越して外へ出ました。爾うすると他のも亦前の真似をして其通りに飛び出して了ひました。私から申すと之れは撰擇のよろしきを得ないで、後から飛び越したものは、眞實に善いのか悪いのかを見極めず、即ち撰擇をしないで、唯眞似をしたばかりでありまして、決して安全な企圖では御座いません。で女學生徒諸子も一に撰擇と云ふものに重きを置いて、自分は外のものとは別に成つて其れが好い事ならば、何處までも自分の生涯を有益にさせやう。富まさせやうと云ふ決心をもつてかゝらんと、終には學問のある人と學問の無い人との差別が無くなつて仕舞ひます。之を喩へてみると、恐かな人

が金錢を澤山もつて居つて、それを銀行に預けておいたが、さて急に貧乏に成つて金錢を要したけれ共、預けて置いた金員を出す事は知らないで、只困苦で居つたと云ふ咄と少しも遣いせん。皆様が有益な學問を習つて居て、之を用ひないのは夫れと同じで御座います。夫れ故に力を用ひ學問を用ひて、人生が如何なるものであるかと云ふ事を考へて貰はなければなりません。而して夫れを心に堅く定めて進み行けば、道は自から開けるもので御座います。私が十七か十八歳の時、私の兄が大學に入つて、學問をして居りました。其頃英吉利の諸大學は、婦人の入學を拒絶して居りました。けれ共、私は兄が歸つて來た時分に、どうぞ私も大學校に入つて學問を仕たいと考へましたが、入れ無いと云ふ以上は仕方が無く、其中に段々年も寄つて、漸く私は入學致しました。之れと

申すも、必竟決心を堅めて時節の來るのを待つて居つたからで御座います。テ諸子に致しましても、試みると云ふ事は、飽く迄もこゝろみ、行つて見ると云ふ心は何處までも持つて御出になれば好時期は必ず参ります。其れとも若し諸子方が私の云ふ事をお信じ成さんなら、試験して見て下さへ。私は再三再四試みて苦心して居るもので御座います。私の願はどうか皆様が已れの生涯は已れの欲するが如くにするると云ふ事のお悟りを頂きたいので御座います。又偏に夫れをお勧めするのて御座います。

第三は稍悲哀な點で御座いますが、私共人間は意志を強固くし、賢く又善人にならうと云ふには、決して一朝一夕に出来るものでは御座いません。即ち急速には参りません。極く徐ろに成長發達させて、而して一生

懸命に成つて、絶えず其事に心掛けて居つたならば如何に難い事でも遂には其目的を達する事が出来ましよう。私が學校に居る時に、先生は作文を書かせたり、文法を教へたり、なか／＼嚴重にして呉れましたが、私は其時分心竊に、此の教師はあまり賢く無い教師だと思つた位で御座いました。又た曾て諾威の國へ行きまして、或海岸に立つて居りますと、沖は波が非常に劇しく荒れて居ります。共、入江の方では僅に小波が立つて居る。其入江で或る親が小供に船を操つる事を教へて居りました。所が其親が頗る嚴格でありまして、操つり方が少しでも違つて幾度も幾度もやりなほさして、終には殆ど怒る様な聲をして、教へて居ります。私其時小供の潛き方が、自分の考へにはどうしても至極よいやうに思はれましたから、其の父に向つて、何故さう云ふ風に小供を

めるか、小供の漕ぎ方は悪くは無さうに見えるがと、斯う申したならば、其父が答へますに沖を御覽なさへ波が高う御座います、私が教へて居るのは入江のみで漕ぐ事を教へて居るのではありません、只今は小さな波であるから之で宜しいが、後日に荒海へ出てから船を操つる事を知らなければ、遂ひに輕忽しい男に成つて、完全な漕手と成られませんか、夫れで此の通り嚴重にするのでありますと申しました。私は此話しを聞いて感に打たれました。學校で皆様がなさつて居る事は、此の話と同一で御座います、小さな作文、文法、歴史も夫れは非常に嚴重に、非常に正確に、一點一畫たりとも、過ちの無い様に教へて置かないと、皆様が世の中の風波におあいになつたときに、果して如何なる結果が参りましたやうか。人生と云ふものは風波の無いもので御座いませぬ故に、夫れに

遠慮して行かうと云ふのには、矢張り小さな内に、學校で勉強して、熱心に、又た氣力を旺盛にして、習つた所のものを活用しなければなりません。と申しても、之れが一朝一夕で功果を見ると云ふては、なく、段々として行つて行つて行りぬいて、遂に其目的を達するので御座います。第四の點之れは餘程必要な事で御座います。其れ共、或は皆様の御了解に御苦しみになるか共思ひますから、二三分の間極くく、氣を付けて御聽き下さる事を願ひます。其れは私が曾て瑞西に遊んだ時、ある朝早く、未明に旅宿を出て、高いアルプス山脈の山を登つた事が御座いました。大勢の仲間が出来ましたので、朝の二時に、提灯を點けて、案内者を雇つて出ましたが、何分にも肌を裂く寒さで、而して未だ二時の時でありましたから、暖かく寝込んで居つたからして、仲々睡むたう御座いました。

のみならず、道が非常に滑つて、實に歩き悪くう御座いましたので、斯う云ふ寒い時に、眠い目をして、滑る危険を犯して、何の爲めに、成る事であらふ、何の益があらふとまあ斯う云ふ事を疑ひながら、登つて行きますと、二三時間経ちます内に、東の方から、太陽が出て来た見え、雪のある山の頂上に其光りが移りはじめた。夫の輝いた光りと云ふものが實に奇麗で、又た如何にも美麗な景色でありましたから、其時は最う私の心が浮き立つ様で、足の疲勞たのも忘れて、前の方にくと進んで行きました。夫れから、又た、時々山の頂が見えなく成ると、早く見える所へ行かうと思つて、駆る様にして行つた事も御座います。此山の絶頂は抑も私共の所謂「アイデアル」でありまして、極美極致の理想で御座います。之れと同じ事で、若し理想と云ふものを私共が目的として進むなら

ば非常に面白味を以て、世の中を過す事が出来やうと思ひます。私共は知識力并に機會を賢く應用して明白なる理想と云ふ者を自分の目前に見付けねばならぬ。其理想の爲めに、時間、氣力を費しましても、決して損は無ひので御座います。皆様は今こう學校で勉強して御出でになるけれども、いまに成長した婦人となりて、世の中に出るその時には如何なる人物如何なる婦人となりて、社界の爲め、人の爲め、有益な事業をしようかと云ふ考へを付けねばなりません。私は特に斯う斯う云ふものが理想であると云ふ事は申しません。此等は皆己れの着目する點に依りて異なります。併しながら一つ申し置きたき事は、皆様が貴き氣高ひ所の氣品を備へて居る昔からの名高い、英雄豪傑烈女節婦の事柄を御讀みになる時に、夫れを皆様の肖像として、夫れを皆様の目的とし

て、夫れよりも上に出でやうと云ふ考へを以て居れば自ら善ひ方に向ふ事は疑も無いので御座ひます。

第五の點は皆様が新しひ理想と云ふものゝ觀念を得られん事で御座ひます。どう云ふものが極めて貴く、高尚なる婦人であるか、どう云ふものか氣高い氣品を備へたる婦人であるかを云ふ事は先程も申しました。之に附隨する、何が理想であるかと云ふ一點に付ては、私は多年の經驗上之れが婦人の理想であると、指示する事は致しません、と云ふのは、生徒が理想的婦人とはどう云ふものだと云ふ事を自分で畫く事が出来又考へる事が出来るからでありまして、自分が出来る事を、人が行つて呉れては、何時迄も發達する事が出来ず、人は腦を使へば使ふ程自然に發達するもので御座いますから皆様も御自身で理想を造つて御

覧なさい、他人から聽いたのでは役に立ちません。私が山の絶頂を見た時の理想は、私の心中に非常に深く感じましたけれども、外の人の感じは、或は私のものとは別であつたので御座いました。やうのみならず、日本でも英吉利でも、世が變遷して行きます毎に、婦人の生涯は殊に大に變遷するので御座います。皆様はお若し、私は年老て居りますから天下の法則から申しますと、私の方が早く世を去る。其中に皆様は婦人となりて、社界に御出でに成る。されば今日之れが私の理想であると申しても、其時に成つて、社界が變つて居るならば其理想も従うて、いづれに致しても、其新社界に適應する人となるのには、今日から決めておいたもの丈では不可ません。即ち段々時と共に變遷して行かねばならぬで、夫故にあなた方も御自身で其理想を定めに成つて、其新しい状態に應ずる様

にお考へに成らん事を希望致します。終に臨んで、皆様に申上げ置きたい事は、吾が國の人々は、近來此日本と云ふ國に對して非常なる意味を以て参りまして、日本の風俗人情、事柄を知りたいと致して居り、従つて機會のある毎に、此日本を研究する事を致して居ります。私は幸に貴國に参りまして、貴國を觀察する事が出来ましたが、山來日本には立派な事も好い事も御座います。變りに又た其中には悪い事の無きにしても、あらずして不感心な、面白く無い事も御座います。此弊害を除き去るには、御婦人の方にお願ひ申すより、外は無いので御座います。譬ひ男子は立派な人が澤山あつて、世の中に立つと致しても、どうしても婦人で無ければ出来ない事柄も御座いますから、此後とも出来得る丈け勉強して、充分の教育を受けた婦人となられん事を希望致します。今日文

明開化の舞臺に於ては何うしても教育を受けたんでなければ完全なる事は出来ません。此間兵隊が操練をして居るのを見ましたが、勿論之れは戦争の時の準備で御座います。戦ひの直ぐある事は希望しませんが、併し一朝事變があつた時には平常練兵場で習つた所の事を實際に應用して大に勝利を收めねばなりません。皆様が學校に御出でになるのは恰も操練をして居る兵士と同じ事で御座います。社界にさへ出ますれば充分機會はありますから、其機會を見付けて、自分経験を施して、而して之れを矯正せん事に御盡力あらんことを願ひます。私どもは女であるから、其様事は出来ん、と云ふ様な謙遜な引退的の事は云はないで、行つて見る機會がありましたら、必ず夫れを捕へて行つて見ると云ふ精神を持たれん事を希望いたします。前にも申し



ました私の賢い祖母は、一分間でも、一時間でも、半日でも、機会があつたら、必ず夫れを引捕へて一生懸命に心を練つて研究せよ、又機会が無かつたら、自分から造り出せ、而して何處迄も其機会を利用して事を實行せよと云いました、實に之れは味のある事と思ひます。どうぞ皆様も機会を逃がさずに、善い事の方に利用せられん事を希望致します。(完)



### ◎登山の説

私が今日此登山と云ふ事に就てお話致すわけは、登山と云ふ事が非常に體育上價值がありますからです、一體日本では、山に登る事を大層恐れて居つて、近世迄婦人は山に登る事を許されん様で御座いました。が併しながら此の日本と云ふ國は天然上非常に愛する所の多い國であつて、私は斯う云ふ様な問題に付て度々各國でお話を致したけれども、斯う云ふ様な好いお國に遇つた事がありますが、又此の天然の山の多いのは誠に幸福な國であつて、私はスイツツランドに旅行した事がありますが、此所も随分山の多い所であつて、度々山に登りましたが、此の登山

と云ふ事は非常に善い事で御座いますから、貴國の様な山で圍遶て居る様な國に往つても出になる方はどうぞ度々御試み下さる様に願たいので御座います。乃で此登山の効能はどう云ふ事であるかと云ふと、第一山に登ると大變に骨を折る。之れが即ち身體のために、非常に好いので御座います。或人は過度に身體を使うのは善くないと云ふも、私も夫は餘り使ひ過ぎるのは一の危険があるだらふと云ふ事を信ずる。けれ共、若しも善い條件のもとに運動したら決して恐るゝに足ん事と思ひます。で私は婦人に對して色々な興味を持つて居りますが、中には上流婦人は山に登る事は好いと事ふ事を考へて居ります。何故かなれば婦人は男子に比較すると、どうしても骨を折つて仕事する機会が乏しいと思ひます。夫れから又生理學者が云ふには、一つの仕事に智を聚

めて一生懸命に仕たならば、今度は其反對に身體を休める必要だと申します。而云ふ場合には、山に登る事などが極く適當な方法であります。私共が今日斯く複雑した世の中に住んで居つて、些細な事にも氣を揉む事が澤山あり随分過激に腦も使ひますから爾う云ふ場合には是非身體の運動を充分にして其の過勞を癒すのが一番好いやうに思ひます。第二には曠漠とした郊外に出て新鮮なる空氣を吸ふ事が最も善いので御座います。何れの國でも、最も多くの婦人方の主なる職業は家を治めると云ふ事で御座いますからして郊外に出て充分新しい空氣を吸ふと云ふ事が乏しい様に思ひます。従つて生理學者や心理學者は婦人の道德智力が男子とどう云ふ風に違ふかと云ふ事を研究したければ、共まだ希望の様な結果を見る事が出来なかつたが、歴史的に考へても

婦人は男子よりも神経質で感情の強いものが多いやうで御座います。故に之を抑へるには、どうしたら善いかと云ふと、曠漠した郊外の地に出て、太陽に晒されたり、新鮮なる空気を吸うたりする事が必要で御座います。近世の様に複雑した世の中では、段々神経が過敏に成つて來ますからして、斯う云ふ世に處するには、猶更郊外に出ずる事が必要で御座います。第三の効能は前に申した様な事計りてなしに、山の上にある空気が誠に清潔で、其上に高處に至るに従つて空気の壓力が渺なくなりますから、何とも言はれぬ様な好い心持を感じます。夫れから山の上にある空気は下界に在るものと、比較すると、一種の含有物を持つて居ります。即ち夫れは人の顔面其他皮膚に觸れると清潔な活々とした感を與へるので御座います。若しも皆様が山の上に登つて新鮮なる空気中

に御休みになると、今迄の疲勞は悉皆忘却して仕舞つて非常に愉快に感ずる。夫れのみならず、今迄世の中に居つて、生活の困難やら職務上の難義やらで腦を使つたのも山に登ると皆忘れて仕舞ひます。實に精神も身體も一變した様に思はれる。而も之れは其時一時丈でなく、將來に向つても非常に効能があります。現に私共は種々な境遇に處して不快の念を起した時には、何時でも登山した時の事を考へます。兩うすると、其時に非常に困難をした事を追想だしますから、斯かる些細な事は比較になりはしなないと思つて自然と心が快潤になつて參ります。第四の効能は登山すると勇氣を生ずる、一體婦人は男子に比して危険な場所に身を置く事が渺ない。男子は航海もするし、或は鑛山に往て金堀をしたり其他色々の危険の場所に出遇ふ事も御座います。其女子は比較的

に爾う云ふ事が尠ない、夫故にどうしても女子は男子よりも勇氣に乏しい。尤も女子と云ふものは形態的に人に依頼する様に出て居るからでもありませんが、併しながら今日の如く段々世の中が進歩して來ると共に婦人にも相應の勇氣がなければならぬのです。其勇氣を養成するのには、登山が最も善いのです。始めては随分困難なもので御座います。其れ共、其代りに此困難を凌いで其目的を達すると、今迄は出來な

いと思つて居つた事でも仕遂げる事が出來る様になります。之れは即ち登山が他の事に於ても勇氣を興たへる證據で御座います。併しながら私は世に差出る所の婦人は嫌いで御座います。稍もすると、出過ぎ者と勇氣のある者とを間違ひる事がなりますから、一寸其辨解を致して置きます。此差出者は女子已而ならず男子でも私は大嫌で御座います。

夫れから又登山は勇氣を養ふ計りでなく、忍耐の力を養ふ事が出來ます。何故なれば、長時間山に登りて歩いて其間疲勞をも見せず、莞爾として歸るのには非常に忍耐をしなければならぬ。夫故登山は勇氣と忍耐と二つの力を養ふに足ると思ひます。第五の効能は非常なる所の快樂を興へる。吾人は例へばどんな事を見ても何分か幸福を興へると云ふ事ではなければならぬ。夫れは先刻申上た様に忍耐勇氣と云ふ様なものに由て愉快を取るのではない、天然に美の景色によりて夫れを得る事が出來る。即ち雪の上に輝いて居る麗しき所の日光、天の原の様な場所或は雪の中に巍然としたる山の景色など、云ふものは實に言語にも盡されぬ様な美を顯はして居る。其れを見た時の愉快と云ふものは實に何とも譬い様は無い位であります。今の様な複雑な世の中に居つて

は精神の快樂と云ふものを得る事が非常に必要だと思ひます。夫れを得るには此の登山は最も善い事であり、第六の効能は過度の勞働を醫する事が出来る、吾々の腦は常に活動に満ちて居るから登山などをして萬事世の中を忘却すると云ふことは最も腦のために善い事となつて、單り腦計りでなく身體を常に登山の際は、非常なる困難をして登て行くのであるから、身體は非常に疲ますけれど、其登り詰めた時には恰かも一の仕事を仕上げたと云ふ様な感情が起つて、身體と腦の疲勞が一時に去つて仕舞ひます。

序に御參考迄に私が登山を致した時の御話を致します。山に登る時は何時も麓の小屋に宿つて翌日出立するので、先づ豫め三ツの用意すべきものがあるのです。即ち先導者靴、食物の此の三ツで御座います。此の

先導者即ち案内者は大概は皆免狀を持て居る。夫れ故に其の免狀を見ると其の者の技量が大抵分かります。此の案内者と云ふものは最も大切なものであつて、若し其者が不熟練なものであると、不慮の災を招く事が御座いますから、豫め此の者は余程よく注意して撰擇して置かなければならぬ。夫れから靴は非常に丈夫な皮で拵へたもので、衣服は裾の方を短かくして上の方はフランネルで造つた着物周囲の開いて居る様な帽子を被りて、網を被りて、夫れからモウ一つは白い油を持つて行くのです。夫れは何にするかと云ふと、山に登るに従ひて日が近くなつて日に焦けるから、十五分間位宛に顔に其油を塗るので御座います。夫れからモウ一つは日光が強くなつて殊に雪の上に反射した光などは大變に眼を害するから、青い色の眼鏡を持つて行く。夫れから丈夫な

手袋靴の上に穿く脚絆の様なもの等を持って行くのです。又始めて登る人は錐の様なものゝつひた杖をついて行くので御座います。其時には早く起るのが一番で御座います。食物を食べる其中に案内者が来る。餓の様な氷を攫き分けるもの及び洋燈を持ち食物を負荷て而して猶外に一條の繩を持つて居る。夫れから山の上に少し登つて或る場所を行くと、綱で以て一行を縛るので御座います。夫れはどう云ふ譯かと云ふと雪の上で滑つた時に殊によると轉落することがありますから、而う云ふ場合には他の人の綱で助けて救つて遣るために而うするのであります。夫れから又雪が降つて固く成つて居る時にはどうするかと云ふと、飛口の様なもので雪をかき分けて、脚の這入る位の狭ひ道を拵へて通るので御座います。時とすると脚が深くはいつて仕舞つて抜けな

い事もある。又時として峻しい巖の上に登つて足を滑らして空中に鉤り下げられる様な事もあります。又氷の上を渡つて行く時には、時々氷の龜裂目がありますから其所は避けて走りますが、時に依ると、其上に雪などが積つて居る爲めに知らずして其割目の上に登る事があります。すが、而う云ふ時には随分危険な場合に陥る事も御座います。併しながら斯く色々な困難を盡して山の頂上に達した時には非常に愉快で御座います。夫れから又山を降る時も中々困難である。斯く難義な目に遇つて下界に降りて来て緑の草や木を見ると非常に快樂を感じ、又同時に非常に疲勞を覺へて能く眠ります。此の登山の愉快と云ふものは到底山に登らん人は察し得る事が出来ません。私などは御承知の通り随分種々な多くの仕事を致しますが、私の身體

は大變丈夫と云ふ方では御座いません、若しも私が屢々登山なんぞを仕なかつたなら私が今迄に仕た所の事業は成就しなかつたかも知れませんが、私が望みますのは、日本の御婦人殊に上流の婦人方は、日本に向つて成さるべき仕事を澤山持つて御座るので御座いますから、夫れには充分の慰みも取つて、智力體力も養はなければ成りませんから、私か自分の實驗上から此の登山と云ふ事を切に貴婦人方に御勧め申すので御座います。

(完)



### ◎英國人の立場より見たる女子教育

英人より見たる女子教育

一四五

會長紳士淑女諸君、私は今此の大切なる帝國教育會の諸君に而會し且つ一場の演説をする光榮を得たことは、甚だ満足に思ふ所であり、日本に於ても英國に於けると同じく光榮は屢々重き責任と伴ふものであるが、併し之は宜しきとてあるから、私は不平はないけれども、今こゝで一場の演説を致し、殊に女子教育に付て卑見を陳ぶるに當つては、非常な責任を感じます。私は出来れば演説をするよりも寧ろ聞きたいと思ふ位であるので、私は御國の教育を了解せんが爲め御國の風俗思想等を了解したいのでありますから、私の今日諸君の前に申上げることが諸君の御考と違ふならば、日本の輿論と私の考と違ひまするなら

ば、其點に付てはどうかあとして充分に私に能く諸君から言つて聞かして下さることを望みます。

私は先づ諸君が英國人の立場から見たる女子教育と云ふとに付いて多少の興味オウキウミを感じられんとを望むのである。東洋の島帝國シマテイコクなる日本と西洋の島帝國たる英國との間には、單に地理上のみでない他の種々なる似たことがあると自分には思はれる。日本の水夫を見る毎に彼と英國の水夫との間には、唯々外界の似寄ニホヒばかりで無しに内部に於て餘程似た所があるらしく私は存じます。亞米利加に八ヶ月居つたあとで日本に參つて見ますと、此日本の古い國であるといふことに付て、餘程英國と似て居るといふと感ずるのであります。例へば古い風俗があり、古い言ひ傳ツタがあり、古い文學があり、古い家がある。同し家族が一つ所に幾百年も住んで居るし、又熱心なる愛國心は世襲セシヨク的なる帝王の周圍に集つて居る。英吉利の紳士社會セントトヤンの義氣と日本の武士道とも餘程似て居るやうに感ぜらるゝ。さう云ふ風にして日本と英吉利との似寄は、確かに外形ばかりで無くして内部の似寄であらうと自分は思ひます。から私は今日は英吉利人の立場からとして女子教育のことに付て、諸君に一場の演説を致すとは諸君に取つても多少面白いとであらうと思ふのでございます。

私は茲に九つの點を擧げて私の考を御話したいと思ひます。

(一) 第一の點は、女子教育單に女子に關係する問題で無くして男子にも亦た大に關係する問題であるといふこととであります。此點を少しく述べて證據して見たいと思ひます。今日ダーウィンの説の流行する世



の中に於きましては、遺傳といふことを輕んずるとは出来ませぬ。即ち身體の上に於ても、智力の上に於ても、道德の上に於ても、遺傳といふことは大變に大事なのでありますから、女子即ち母親の教育は實に國民的問題である、男女共に重んずべき問題である。例へば兵士の勇氣、商人の智慧、役人の才能、文學者の力量等の上に於て女子教育は大變な關係を以つて居るのであります。此等の點に於て如何なる満足の結果があるかないかといふことは、此等の人々の母たるものが如何なる人であるかといふことに關係するのであつて、母たり得るとは女子に取りては同時に困難なるとでもあり又名譽あるとでもある。又近時學問の進歩は境遇の大切なることを證明し來つたのである。如何なる完全なる植物も境遇が悪しければ枯死してしまふ。人間も亦同じとて境遇が悪

しければ發達は害せられ伸ひるべきものも伸ひることが出来なくなる。而して家庭は吾人の第一の境遇で又一生涯大切な境遇である。故に其家庭の中心となるべき母たるものが不完全な教育を受けた人であらば、如何なる良教師に托するも小兒は決して理想的に教育せられた人にはなれない。若し此の小兒が成長して不完全なる教育を受けたる妻君の支配する家庭に住み、且つ不完全なる教育を受けた女子が劣等なる地位を有する如き社會に居らしめば、彼の教育の爲めに費されたる金と考と力とは實に無益である。私の地方に於ては一種の諺がある。汝若し母と妻とを知らば畧ぼ其人を知り得べしと云ひます。之は人か家庭の感化を受けるとの強きを示すものであります。全體階級的利己主義といふものは、必ず悪い結果を全體に及ぼすものであつて、利己主義

によつて得をしつゝある様で實に利己主義の爲めに己れも大變な損をするが常である。今日までの所では男子といふ階級が言はゞ跋扈して女子と云ふ階級が抑え附けられて居る。其結果は單に女子の禍となる斗りでなく、延いては社會全體の禍となつて居る。女子に十分進歩の機會を與へずして、男子のみ決して先きに進み得るものではない。女子も進んで始めて男子も十分進み得るのである。女子は實に政治上社會上の進歩に於て與つて最も力あるものである。歴史は屢々女子の無學が一國の文明の進歩を妨害した例を示して居る。然り女子は能く一國の文明を或は進め或は退かしめ得るものである。文明國たるもの安んぞ女子をして文明の進歩を害せしめて満足するところが出来ませうか。女子の教育は女子をして其國の進化を助けて之を妨げない様に大に盡

力せしめ得るのである。要は男子をして女子の教育と其の幸福とが單に女子に關係するのみでなく、直接に彼等男子に關係あるとを得心せしむるとである。

(二) 第二の點は女子教育を完成せしむる爲めには女子でなければ出来ぬ仕事がある。即ち女子でなければ盡されない、男子のすることの出来ないことがあるといふことであります。どういふえらい人でも男子のみではどうしても女子の理想的教育を爲し遂くるとは出来ない。必ずや女子をして己れの見解を發表せしむることが必要である。夫故に此の目的を選せんが爲め、英吉利に於きましては、例へば女子で役に立つやうな人があれば、之を女子教育に關係ある凡ての學校の監理者若しくは下役に用ゐることを大切と思ふ様になりました。英國の男子は寛大に

も曾ては己れ共が丸でして居た仕事を我等女子に分ち與へて我等の能力のあらん限りを盡さしたのであります。固より慣れぬことであるから随つて不完全な務をするにも拘らず男か忍耐して女に色々の良き地位を與へ仕事をさせたのであります。英國に於ては過去の教育の不完全な爲めに女子といふものは兎角自ら部下し易くなつて居る。此の引込思案を療治せんが爲めに出來る女子さへあらば之を擧げて女學校或は女子大學の下役に或は頭に用ゆるとして、斯くして今日に於て英國か其の高等女學校の女學生に與へつゝある教育の大切なる部分は、此等の學校の校長或は教頭が學問もあり社會上の事柄に熟達し且如何に女を取扱ふべきかと女子の心と生活に付てソクラテスすら持たざりし活眼を有する大學出の女子であると云ふとである。而し

て高等女學校程度の教育は世界中で英國が第一であると思ふが、女學生に取り同じく女子たるものが高等なる學校の教頭となり或は校長となるを見るは其の感化決して少からぬのであります。

(三) 私の第三に申したい點は、女子教育は今日に於て未だ確定したる問題で無くして極らない問題であるといふとであります。當今女子教育の最進んで居るのは今日では英國と米國と二つであります。其英國の女子教育は五十年前如何にして始つたかと言ひますると、始から理論的にやり出したのでは無い。若し理論的にやつたならば、是は英吉利人風でありませぬ。吾人は此の問題が段々と實驗によりて定めらるべきものと考へました。殊に女子に何が一番宜しきやら知らなかつたのである。只在來の實に不完全無効力な女子教育を廢しました。此の教

育は實に詰らないもので佛蘭西語を少しやるとか色々あることを讀記するとか云ふ位なもので實際の役に立たない教育でありました。當時は此の外に教育と云へば男子の爲めの教育があつた斗りでありました。故に此の男の教育を土臺として始め、女自身が教育に従事する時を待つて居たのである。吾人の多くは男女は別々にして科目を分けて教育すべきものであると考へたのであるが、併し今も尙試験中である。始めは云はゞ男の教育を女子に用ゐたといふやうな有様で、後に段々其不完全なことが分つて來、又婦人の教育にはどう云ふ分子が必要であるかといふことも分り、遂にこゝに色々の區別を立て、女子教育といふものは男子の教育と別になつて來た譯であります。今日の所に於ても決して此女子教育は英吉利に於て極まつた問題では無い、現に實驗

の最中でありませう。又米國の女子教育はどう云ふ風でありますかと言ふと、大分英國と趣を異にして居る。亞米利加に於ては始めから男子と女子に同じ教育を施すといふやうな方針で教育をやり掛けたのである。即ち合同教育(コ、エデュケーション)で男女合併教育であります。所が今日に於ては有力なる教師の中に段々と合同教育に反對する者が起つて來たので、例へばミユンステルベルヒといふ博士の書かれた合同教育に關する面白い論文を讀まれたお方は合同教育に反對の議論を御承知であらう。之は餘程面白い議論であるが、固より之に付ては反對論もありますから、反對論も諸君が御讀みなさることは必要である。毒を喰はゞ又毒消しを服用することも必要である。どちらが毒消であるかどちらが毒であるかの問題であるが、兎に角女子教育は今日に

於ては確定しない問題であります。

(四) 第四の點は斯う云ふ事柄であります。即ち女子教育は其の必要なる分子として如何にして家庭を作るべきやといふことを其中含まねばならないといふ點であります。私が色々の國を今までに廻つて來た中で、家庭の最も發達し又最も勢力ある大切な位地を持つて居るは英吉利と佛蘭西と日本と此三つであると思ひ升。未開國は云はず文明國に於ても女子の仕事は果して何なりやは未定の問題である。併し女子の爲すべき仕事の一是極つて居る。それは男子は此の仕事をして得ぬからである。而して此の仕事の中最も肝要なるは家庭を拵えると云ふのである。男子は家庭を作るとは出來ぬ。そこで問題は良き家庭を作るに必要な準備は良き教であるかと云ふとてある。私は世界の今日の女

明の程度にては然りと主張することを敢てする者である。私の考に據ると善良なる女子の教育は必ず後に家庭を如何に拵ゆべきかといふ其解釋をも其中に含まねばなるまいといふのであります。それではどう云ふ教育を授けたらば女子は立派なる家庭を拵えることが出来るかといふことに付ては、先づ全體に教育には一般の教育と特殊の教育と二通りあるとを知らねばならぬ。一般の教育といふものは、人生の凡ての方面を教育するのが目的で、小供が成長した後如何なる事をするに於ても總て能く其場合に應じて處置することが出来るやうに教育するのである。又特殊の教育の目的は此の普通の基礎の上に立つて或は大工になるとか或は家庭を作るとか特殊の職業に従事するのが出来る様にするのが目的であります。其通りに女子の教育に付ても普

通の教育と特殊の教育と二つあります。女子の教育の中、一般の教育といふのはどう云ふのかと言へば、即ち後の特殊の目的である家庭を拵えるといふことに必要な總ての材料即ちそれに必要な凡てのものを教えるのである。こは余程良く又廣き教育を意味するのである。試みに女の仕事を考えて見ますといふと、たとへば英國に於ては或方面に於ては昔から今日に至るまでに餘程女のすべき仕事の範圍が狭くなつて居る。例へば昔は家庭は各々自給獨立で、着物を拵える食物を拵える或は酒を拵える蠟燭を拵える、其外總てのものを拵えたのである。而して此等は重もに皆女が自分でしたものであるから、大變仕事が多かつた。ところが今日ではさう云ふ風に色々なことをするとが無くなつたから、此の方面から言ふと女の仕事は餘程減つたと言はねばな

りませぬ。けれ共亦片一方から考へて見ると女の仕事は餘程殖えたといふ事實があります。或は子弟を教育する上に於て、家内の衛生上の注意に於て下女を取扱ふ上に於て、さう云ふ色々な點に於て、昔の人が考へなかつたやうな色々高尚な仕事が増して來て居ります。そこで女子の教育が必要になる。私が曾てケンブリッジ大學に居つて經濟學を勉強して居た時經濟の書物を讀んで見た中に、どうも經濟學の書物には富の生産のことゝ分配のことゝは委はしく書いてあるが消費即ち富を使ふといふ方のことは、餘り委はしく書いてないと氣付いた。是は多分男は餘り使ふ方で無い寧ろ作る方であるから、男の書く經濟書には作る方丈けを書いて使ふ方のことをば餘計書かなかつたものであらう。今日も米國の諺だと聞きました。金を儲けるは男の仕事で、女子は

金を使ふのが仕事である。斯う云ふ風で女子の方が金を使ふものであるといふことになつて居るから、自然男が書く経済學の書物には使ふことは書かずして作る方を餘計に書いてあるらしい。兎に角女にはさう云ふ風にして金を使ふ必要があるので家持ちの一大事件は金錢を賢く使ふとである。金は作るよりも使ふ方に餘計の教育が必要である。故に女子教育は此點に於て智識を興へ心を鍊るとが必要である。又英國の家庭は社會に對して非常な關係を持つて居る。而して社會に對する交際上或る家庭の成功すると否とは全く妻君次第である。家庭が如何なる影響を社會に及ぼすかは、多くは女の務である。或る英吉利の婦人に關して「彼の女に遇ふことは其れ自身が一種の高尙な教育である」と斯う言はれた。斯う云ふ風な家庭をして社會に大切な勢力を持たし

めやうとするには、先づ女子教育の範圍を餘程廣く高尙にせねばならぬ譯であります。

(五) 第五の點は、即ち女子教育は女子が將來爲すべき新らしき職業に對して充分の準備を興えなければならぬといふとであります。今日と昔と較べて見て女の仕事が大變變つたといふことはもう既に言ふまでも無いこととて、例へば私の御婆さんが私が女子でありながら此公衆の前に立つて演説をするといふやうなことを聞いたならば驚くであらう。さう云ふ風に社會が違つて來ると共に女の仕事も變つて來て將來は女が或は製造場の監督人に或は學校の監督者に若くは病人の世話人にならねばならぬ。さう云ふ時代になると高尙な教育を受けた女子が必要であるから、此等の仕事を女子に興える男子は仕事と共に

仕事の出来るやうな用意を女子に與えることが必要である。

(六) 第六の點は、女子の體育に殊に重きを置くの必要といふことである。日本に於ては多くの時と多くの力とが女子の體育の爲に費されて居るといふことは、甚だ喜ぶべきことであります。どうしても女子は特別な體育が必要なのである。女は元來精神の強い感情の高いものであるから、彼等に高尚な學問をさせるに就いては殊に十分の體育を施すことは甚だ必要であります。其體育はどうか云ふ體育を行ふべきかと言ひますると、詰り運動である遊戯であるが、其遊戯は有益なるさうして自身で能く之を計畫し之を組織し得るやうなもので無いと餘り役に立たない。詰り遊ぶ人各々の自由を以て遊べるやうな遊びで無いと出来ない。之に付ては其道に達した専門の教師が必要なのであつて能

く其教師は女子の體育を特別に勉強した人が其任に當らぬければならぬ。出来るならば此の體育の教師は矢張り女子であつて欲しい。又男女は區別して體操をさすとが大切である。且つ又體育の満足なる方法に於ては必ずや精神上的の結果を以て肉體上の結果よりも重く見るものでなくてはならぬ。今日に於て私の最も完全な體育法と思ふは瑞典に行はれて居る體育法であります。

(七) 第七の點は、女子教育は學校内に於ける教育よりも尙多くのことを含有するといふことであります。私がケンブリッジ大學に居りました時、教場に於ても固より色々なことを學んだが、教場内に於て學ぶより教場外に於て大に學んで益を得たことが多いのである。有名なる學者先生方に就いて話を聞くと社會の將來に關して高尚なる理想を得



て大變に爲になつたのである。女子をも亦斯う云ふ機會に遇はせなければならぬ。學校ばかりの教育にして置いて、えらい人の感化を受けさせないといふのは恰かも女子を不具者にするやうなものであつて、さう云ふ教育に於いては決して其の心は充分に發達が出来ない。詰り心の不活潑な境遇に入れて置いて女子の教育の盛んになることを望むは無理である。學校は人生の門戸である。學校は女子をして如何にして人生の經驗から利益を得べきかを教ゆる所である。故に女子たる吾人は活潑なる生活を爲し十分社會の感化を受けるやうな好境遇の中に入る必要がある。

(八) 第八の點は、女子教育に於ては既に今日までの男子教育に於てなされたる色々の失策を避けることが必要である。どの途女子には不利

益が多いが、少くとも此點に於て女子は便利を男子から得るとが出来。已に英吉利に於ても大分此頃は昔の男子教育に於て仕損つたことを見て女子教育上改めたことがあります。例へば希臘語羅句語の書物を読むとか或は又中世時代から傳つた色々の習慣があるさう云ふ言傳えに従ふといふやうなことは段々と今日に於ては之を捨てるやうな傾向になつて來た。未だ全く捨てたとは行かないけれ共餘程今日は廢つて來た。殊に女子の教育に於て此事は盛んである。夫故に今日英吉利に於ては女子の中等教育は却つて男子の中等教育よりも進歩して居る。日本に來て私が唯々暫くの間見た丈けでも、教育上昔風の悪い習慣が残つて居るらしい。此等は是から女子教育を爲すに於ては是非共取去るべきものでありませう。

(九) 以上陳ぶる所により私は既に第九の點を十分證據しました。即ち女子の教育は大變に大切なものである。國民の半分を形造る女子の教育が大事で無いといふ譯は無い。併し之ではまだ女子教育の大事などが十分分らぬ。殊に女子教育の大事など言ひまするは、先きにも言ひました通り或は遺傳境遇の點から考へても分り、又家庭の點から考へて殊に必要なのであります。所が日本は男子教育が餘り速かに進んだ爲めに、女子教育の方は比較的劣つて居る様に思はれる。此の活潑なる進歩的の日本は決して之に甘んずる國民ではありますまい。

最後に私は御婦人方に對して婦人として一つ御注意したいと思ふ事がある。即ち教育は貰ふべきものでなく儲くべきものである。即ち婦人が是から大に婦人の位地を高め教育を受けやうといふことであれば

一つの代價を拂ふ覺悟が大切である。即ち之からは一生懸命に忍耐して務めるといふことをせぬければならない。私共年の寄つた者が若い人に向いて色々事を忠告することが出来る。従つて失策を避けるとか出来る。併しながら私共とても拂ふべき代價がある。即ち私共も是から何時までも發達せねばならぬものである。詰り社會の發達といふことを終始考へて居つて、其發達する社會に自分も接觸して進まなければなりません。然らずんば時勢に後れて青年者に對して何の忠告をするとも出来ません。

次に男子諸君に向つて一言したい。日本に於ても英國に於けると同じく凡て政治的、財政的、教育的權力は多くは男子に在り。故に諸君の助力を得ずんば女子は殆んど何事をもするとは出来ませぬ。吾人女子は

女子の爲めの學校を要し、財政上の助力を要し、又他の無數なる助力を要す。吾人は實に賢ならんとを望むものである。吾人女子をして恐ならずして賢ならしめ、偏狹へんげつならしめずして趣味廣とくみからしめ玉は、吾人は實に満足するものである。故に又女子教育を盛んにしやうと思ふ婦人諸君は成るべく男子諸君より反對はんたいを受けないやうに務めるといふことが大事である。私共の望むところは目前の小さな勝利、小さな成功では無い。將來に於ける大なる成功、大なる勝利を望むのであるから、そこで目前に下手へたなことをして反對されてはいかない。それで好機會の有り次第に又適當な頼むべき人が有り次第に、其機會と其人を利用して女子教育を進めるやうにすることが大變な大切なことである。英吉利に於きましても女子教育は四十年間ばかりに大變な進歩をして、殆ど

一つの革命をしたと言つても宜い位であります。此の革命は實に四十年程にして出來たのは、務めて手頼たよりるべき人に手頼たよりり乗すべき機に乗じて段々と婦人の勢力を擴ひろげて行つたから、今日の結果に至つたものである。日本の御婦人を見ますると實に驚くべき温厚ぬくもと嘉よみすべき親切に富んで居らるゝのである。彼等は確かに最高等の教育を施す値打ねうちのある御婦人である。其身體に於ても、智力に於ても、精神に於ても、凡ての力を充分に發達せしめ、國家の爲めに満足なる貢獻こうげんをなし得しむる様な教育と機會を與へなければならぬ。斯くせば婦人は社會の爲め國家の爲に家庭の爲に十分に力を盡して男子諸君の厚意に背かれざるべきを私は且つ信じ且つ望んで止まざるものである。

(完)

## ◎ 英語教授法に就て

淑女紳士諸君、私は演説の前に申分けをすることは元來嫌ひてござい  
ますけれども、私が日本に参りましたから、その時日が少なく、又日本で英  
語を教授します経験は尙更少ないにも拘はらず、今日此處でも話致し  
ますに付て、特別の理由を申述べなければならぬと思ひます。其理由は  
唯だ三つございます。第一は英國の私の故郷に於ては尙ほ今日でも  
昔のブリチッシュユタングを話して居りますが、自分自ら英語を學びま  
したのは外國語として學びましたのであります。又晩近廿年來自分の  
役目上から故郷に於ける英語の教授と云ふことを視察する地位に立

つて居つた其経験があると云ふと、第二の理由は日本に参ります前に  
方々の國に於ける英語教授の方法を實際に見るの機會に澤山接した  
と云ふこと、第三の理由は日本に於て英語を廣く採用して、學校に入れ  
ると云ふことになりましたのを見ることは、英國人として私の誠に喜  
ぶ所でありまして、是に依て西洋の思想、生活、及商業等に入る門戸にさ  
れると云ふことは誠に善いことであると思ひます。それで時間と精力  
を費すことを割合に少なくして英語を學ぶやうにするは極めて必要  
のことと思ひますが、併ながら日本の最も有力なる教師方に就て其説  
を聞いて見ました結果に依れば、今日の日本に於ける英語の教授法は  
甚だ不完全であつて、大いに改良すべき點があると云ふことを一般に  
認められて居りますし、又自身も之に同意でありますから、私が何か改

良に付ての思付きを申述べる事が出来たならば多少お役に立つてあらうと思ひますこと、此三つの理由のために今日お話を致す譯てあります。

先づ第一に教授の方法に付て七個條の要用の點を申述べまして、最後に特別の改良法となるべき事柄を申したいと思ひます。其七個條の中の第一の點は先づ英語は何のために教へるのであるかと云ふことを極めることとあります。教授法は其目的に依て自ら定まり來るべきものである。然るに日本に於ては英語を學ぶ人に判然と分れて居る二階級があると認めます。其二階級はマルて其目的を異にして居るのでありますから一緒にして教授すべきものでありません。即ち第一は外國の書物を讀んで、之を智識を得る助けにすると云ふのであります。即ち

目に依て書物を讀み書物を解して各自専門の事に關する最新の思想を得るに止りますから、其研究の仕方は唯だ翻譯する書物の意味を解すると云ふだけである。話したり書いたり、外國語で考へたりする必要はありません。是は教育上から觀察しますれば、其結果は誠に狭少のものであつて、普通教育の一部分と見るべきものではないと思ひます。特別教育専門教育の一部分と見るべきものであります。第二種類の學生は唯だ書物を解することとなくして、外國の言葉を話し、書き、讀み、又外國語で考へる。詰り普通教育の一法として外國の智力上の立場を明かにする方法として、外國の生活の状態及び文學に通ずる門戸として外國語を學ぶと云ふ種類であります。是は教育上から申しまして大いなる結果を收むべき基礎となるものでありますから、時間と精力を費やす

價值かあります。今日私のお話致したいと思ひますのは、此第二の種類  
の學生に英語を教授するに付ての注意であります。英語を學ぶ目的  
をかう極めて参りますると、一番大切な點は何であるかと云へば音を  
學ぶと云ふこと、即ち目を用ふるよりも、耳に依て音を學ぶと云ふこと、  
話したり聞き取つたりする事が大切な根本に在ると云ふことが分つ  
て参ります。

七個條の中の第二個條は、前に申しました英語の教授法研究法から自  
然に出て来るものであります。が、語學の目的最後に到達すべき點は、其  
外國語で物を考へられるやうになると云ふことであります。グズグズ々々  
と自國語で考へて然る後に之を英語に譯すと云ふやうな風ではいけ  
ない。それから外國語を聞く時にも外國語を一度聞いて邦語に譯して

意味を取る、早く話されては聞取れないと云ふ風であつてはならない。  
此外國語で考へるといふ最後の點に達するのが目的であるとすれば  
それから論理上續いて起つて来る結論は幾つもありますが、私の今四  
個條だけお話致します。

四個條の第一は邦語に翻譯をしないと云ふことであります。譯すると  
云ふことはズツと進んだ四年目五年目位の生徒には宜いか知れませ  
ぬが、初めの間は之をしないやうにするのであります。即ち英語の形で  
以て物を考へると云ふやうな風にして、日本語の形を考へないやうに  
するのであります。是はどう云ふ風に致すかと云ふと、先づ最初の程度  
に於ては、實物であるか或は自分で繪を描いて見せられる物の名、或は  
斯う云ふやうな(演者黑板上の書を指し)出版した繪を用ひても宜し。そ

れから先きは自分の身體などで形容して意味を悟らせるやうな舉動の詞を教へるのであります。私が日本に參つて驚いたのは、日本の方々は手の先きが器用で、繪を描くことが器用でありながら繪を黑板に描いて示すと云ふことが、學校で多く行はれて居ないやうであります。然るに吾々英吉利人は至つて不器用でありますけれども其點に付きましては、余程多く繪を用ひるやうに實際行つて居ります。此様に様々の方法を用ひましても結局邦語を用ひないでは悟ることが出來ぬ場合が出て來ますから、其時は日本語を用ひなければなりません。一旦其事が分つた己上は幾度も英語でそれを考へ言ひ顯はして、其思想と英語とが聯結するやうにせねばなりません。上手な教師程邦語を使はないですむ。第六年目位では譯解が大切であるが、よく精密に注意してや

る。勿論教師でなく生徒にやらせるのであります。  
 第二は自由作文(フリ、コンポジション)を課して極く初めから生徒の思想を其まゝ英語で表はさせる、書いた作文をする前に、口で作るスピークンコンポジションをさせる事に明白な利益があります。  
 第三は教師が成るべく始終英語を話して居ることであり、英語を聞慣れるやうに生徒をすること、之を致しませぬには教師自から自由に話せなければなりません。併し少數の日本の教師は極く良く英語を話す山あるやうであります。併し少數の日本の教師は極く良く英語を話すことが出来る。其中には外國などへ行つたこともなくして良く話せるものもありますから、英語國へ行かずとも英語を十分學ぶ事の出来る證據になりますか、しがし其國へ行つて思想生活の實狀を知る事は勿論

結構な事てせう。又少し補ひ助ければ速かに英語に達者になれる教師が澤山あるやうです。其助け補ふ方法は後に申します。

第四の點は語學の基礎として心理學上最も大切な發音の明瞭にあると云ふとであります。外國語で考へるには外國語が話せなくてはならん。然るに發音が可なり大丈夫だと感じなくては話す勇氣はあまり出ない。此發音のことに付ては三個條申したいと思ひます。

第一は音韻のことを學問的に教師たるものが一應研究しなければならぬ。即ち聲音學とか音韻學とか云ふものゝ一通りの心得のあると云ふことであります。

第二はアクセント(ストレス)と云ふことであります。日本語には至つて少ないやうであります。英語には著しく存して居りますから、一つ々

々の音は正しく出て居りましても、此アクセントが落ちて居るか或は場所が違つて居るために、日本人の英語が我々英人に聞取れないと云ふやうなことがあります。

第三は適當の言葉がありませぬから暫く言語の調子と申します。即ち英語のチューンであります。英語には英語の一種特別の調子がある。それを一度良く教へて呑込まして置く。と大體の基礎となつて、話す事にも聽く事にも助けとなります。最初から注意すべき事ではありません。此四個條は英語を以て考へるやうになると云ふことに致す基礎となる大切な條件であると思ひます。

七個條の中の第三は非常に大切な事柄でございます。が學級の大きさはどれ位であるべきやと云ふことであります。是に付ては専門家の



説が大體一致して居ますが、先づ時間を省くために獨斷的に申しますと、理想の方法に依て理想的の教授を致さうと云ふには、普通十二人より十五人を以て一學級とするのが適當でありまして、極く上手な教師でありますれば二十人位まではやれる。これより以上になれば徒らに時を失ひ精力を浪費するに止まつて進歩が遅くなる、是等の點は親たるものも生徒も亦教師自身も良く解しく、無駄の骨折をしないやうに一時間で學べるものに三時間も費すといふとがない様にすることか大切と思ひます、教師の方でも學級が大きすぎても最良の教授法を行ふ事か出来ません、英語を學びたいと思ふ生徒をみんな一様に上達させる設備が出来ずば、少數の生徒を撰抜して、いも本當の教へ方をする方がよいと私は思ひます。

第四の點は英語の教授に用ふべき時間でありますが、日本人は元來能く物の道理の分る人種であると思ひますが、併しながら或る英語の教師は外國語教授に一週十時間を要求するなど、随分道理の分らないと言ふやうなものも往々あるやうである。先づ此時間はどれ位にしたならば宜いかと申しますれば、最初の間は無論時間が多くなければならない、最初の三年位は毎日一時間、一週六時間位で其あとは段々時間を減じて宜いと思ひます、さう云ふ風に教場で成べく多く教ゆることが必要であると説いて置きながら、それに反した自家撞着の如き説を提出致しますが、外國語は教場で到底満足に教へ學ぶことは出来ないと思ひます。それはどう云ふ譯かと云ふと外國語の性質として内で學んで來るとが多い、教場では自分で勉強する方針を授けるに止まると思

ひます、其例を挙げますれば例へば新しい發音ハツキを教へたとして、其練習リクシツをして容易に發音の出来るやうにすると云ふことは、生徒に内で十分致すやうさせなければなりません。又外國語を學ぶに暗誦カクジュに依て學ぶべきことが澤山ある、それも矢張り内でさせる、教師は散文サンブンなり詩シなり例を示してよく之を解させる仕事はするが、それを反覆練習して覺ると云ふことは教場以外に於て生徒にさせると云ふことにならなければなりません。

第五の問題は外國教師の効用と云ふことであります。是は譯ワカがございませぬけれどもお分りになりませう。パーニンク、クエツションで、斯う云ふ問題を論議することは私の樂む所であります。今私は而前に内外國の教師方を控へて居ります。私自身も次ぎの週までは日本に於ける

外國教師でありますから、此問題に對して何と言ふべきや頗る面倒なことでありますが、併し斯る問題を論議致しますのは、丁度英國にある刺トゲの生へたライグラといふ物を取扱ふと同じで、ソロ、とこわがつて握れば手を刺トゲしますが強く早く大膽につかめば手を刺されぬて濟みますから、私は思切つて、此トゲ／＼の問題に付て意見を述べますが大體から申しますれば外國語を教ゆるには邦人の教師が最も良い殊に初め四年は邦人の教師が致しまして、あとの一年位を外國の教師が補充ホソウすると云ふことに致したら最も宜いと思ひます。最も初めの四年生の仕事とても、今日の日本の状態で、矢張り外國教師の助けを借りる必要のある教師が多いと思ひます。固より結局は日本の教師が主任となり全責任ゼンゼキを帯びる人となつて居つて、全體にどうなつて居るかを

見渡して居らなければなりません。併し外國教師の助けを借りて足らざる所を補ふと云ふことは随分必要があると思ひます。それでどう云ふ風にして助けをするかと云へば、相當な教育を受けたる男子或は女子の外國教師(勿論男子ならば大學出身で年俸三千圓位、女子ならば矢張り相當の學位があつて一年二千圓位の人)が一人あつて其教師が十五校乃至二十校に屬して居て、日本教師のために會話の級を開いたり、發音書物、英國生活の引き事、英文學、新教授法等に關する智識を與へたり、詰り一口に申せば極便利な人間の辭書——生きた辭書と云ふやうな地位に立つて日本の教師の足らざる所を補ふてやると同時に、上級の方を少しは數へる。又時々は特別の點を説明するため、デモンストラシヨン教授をして日本教師に見せる、こんな處に今日外國教師の効

用があると思ひます。これ丈けの仕事をするには勿論美しき英語を語り、最良の英國生活を知り、最良の英語教育を受けた人でなくてはならぬ。私はいつも生徒に申すこととてありますが、教育の目的は生徒たるものが教師がなくて濟むやうに育て上げると云ふこととてあります。此外國教師のことに付ても矢張りそれでありまして、他日日本の教師が外國教師の助けなくしてやれるやうにする、其處に進むまで外國教師の助けが必要と申すのであります。

第六の點は教科書と申すものが比較的大切でないと思ふこととてあります。假令立派な讀本でありまして、之を用ふる教師が悪ければ其結果甚だ不良であります。教科書は少々悪くても之を用ふる教師が良ければ、却つて其効果は多いと思ひます。私が初めて米國に参りました

て感じました事は教科書に大いに重きを置いてあるやうに見へた事でありますが、併し彼地の有力な教育家の説を聞けば、是は書肆出版者や地方官吏などの考から起つたものであつて本當の教育家が是認して居ることでない、寧ろ反對して居るのであると云ふことを聞きまして、私は是が正しいことであると考へたのであります、英國の方では教科書を文部省其他の當局者から指定することは致しませぬで、極く自由にしてあるのであります。

第七の點即ち最後の點は實際の書物——教科書は本當の書物でない——書物が語學に大層大切であると云ふことを申したい。固より外國語を學びますには始終其外國語を耳に聞いて學ぶと云ふことが一番良いでありますけれども、是は日本にある學生には通常出來ないこと

てありますから、次に一番行はれ易きこととは何であるかと云ふと良き書物を澤山讀むと云ふこととであります。成べく安い書物を澤山に學生に讀ませるのであります。さう云ふ風に致しますると實に不規則なる英語の綴字などが段々解せることになります。今綴字に用ゐて居る時間を讀書にむけて、却つて綴字の稽古にもなります。又段々多く讀む中に自然單語も覚え、英語の組立てや慣用法も分つて参ります。始終字書を用ゐて六ヶしい書物を讀むよりも、やさしい書物を澤山よむ、新語の表をちやんと備へて學校で教師に助けられて讀むのである、讀むといふは名々聲を出してそろ／＼讀む。五ツ六ツも疑問がたまつたら教師に尋ねる。それから段々進歩すると内／＼讀めるやうになる。序でに申しますが、日本の學生が英語を讀むやうになると、英文學と云